

務実 架橋 貢献

在日中国科学技術者聯盟 十五周年記念冊

发刊寄语	-----	-----	發刊の辞
祝辞	2	-----	祝辞
科盟概要	7	-----	聯盟概要
2008年理事会構成	8	-----	2008年理事会構成
科盟大事記	9	-----	聯盟大事記
分会介绍	14	-----	分会紹介
人物介绍	19	-----	人物紹介
十周年纪念	27	-----	十周年記念
东京论坛	30	-----	東京論壇
学术交流	42	-----	学術交流
归国访问	45	-----	帰国訪問
来访接待	49	-----	来訪接待
接见会見	51	-----	会見
会员大会	52	-----	会員大会
理事会	54	-----	理事会
交流活動	55	-----	交流活動
南京合作	59	-----	南京提携
鸿雁往来	60	-----	書簡
出版书刊及紀念品	61	-----	出版物及び記念品
设立经纬	62	-----	設立経緯
历届理事会名单	63	-----	歴代理事会名簿
科盟章程	65	-----	聯盟定款
后记	-----	-----	後書き

目録

発刊の辞

務実 架橋 貢献

発刊寄語

在日中国科学技术者聯盟 会長 楊克倫



光阴荏苒，岁月悠悠。旅日华人科技人士的最大社团「在日中国科学技术者联盟」已走过了十五个春秋。十五年，在人类历史的长河之中只不过是弹指一瞬，但对海外华人社团来说，却是一个从起步到逐渐走向成熟的过程。冷热起伏，停滞发展，所有这些深深浅浅的足迹都真切地印在「在日中国科学技术者联盟」的成长历程中。

2003年初，我在科盟的发展小憩瓶颈之际接任会长职务。受理事会成员及会员们的殷切希望的“重振雄风”是设立15周年要面对的。15年，这是人类的历史上从未有过的。15年，我们从成立之初的“团结、务实、贡献”的宗旨出发，团结一致，共同努力，使科盟在短短的15年内，由一个默默无闻的小社团，发展成为今天在日华人科技工作者的代表组织，成为在日华人社团的骄傲。科盟在东京成功举办了许多大型中日交流品牌活动，其中的“东京论坛”——中日经贸科技交流会，被誉为深入日本主流社会、为中日友好交流事业铺路架桥的壮举。几年来，科盟与驻日大使馆、国务院侨办、中国侨联、中央统战部、外交部领事司、全国人大和政协侨委、欧美同学会、中国科协以及辽宁和广东等地方政府，特别是与南京市外专专家局、北京中关村等建立了密切的协作关系。科盟还与日本国际贸易促进协会、日中友好会馆、日中友好协会、日中经济协会、特に川崎市政府、日中产官学交流机构等日本各界建立了友好关系，共同开展了许多互助共赢的事业。

运营方针与时俱进是科盟近年来迅速发展的原动力。从完全围绕和追随国内外学子活动走向的运营，到立足于日本社会，创投中日交流活动品牌的自主运营，从面上的扩大影响到点上的务实合作；从轰轰烈烈地创品牌到脚踏实地重回以联谊为中心的原点，科盟像一个从青春期走向成熟的孩子，一步一个脚印地成长起来。

人们常说“心有多大，舞台就有多大”。科盟为旅日仁人志士提供了一个如鱼得水的施展空间。十五年来，广大胸怀鸿鹄之志的旅日精英云集于此，学者的学问得以切磋，技术人士的专长得以升华，经营者的商机得以扩展。在科盟，青年学子因得到锻炼而走向成熟，青年学者因得到施展而焕发青春。科盟使广大旅日游子在日本找到了朋友，找到了家，找到了可以淋漓尽致发挥个人潜能的大舞台。

十五年，仅是科盟辉煌发展历程中的一个小小节点。我们回顾这段历史是为了展望未来，今后愿与诸君共同努力，共创科盟美好的明天。

発刊の辞

在日中国科学技术者聯盟 会長 楊克倫



今年、「在日中国科学技术者聯盟」は設立15周年を迎えています。15年というものは人類の歴史から見ればたったの一瞬かもしませんが、聯盟にとっては、設立してから次第に成熟していく過程を辿ってきました。情熱の波と起伏、そして停滞し発展、深い足跡も浅い足跡もすべてはっきりと「在日中国科学技术者聯盟」の成長の歴史に刻みました。

2003年の初め、聯盟発展の厳しい時期に会長に就任しました。理事会のメンバーと会員からの「改革振興」という強烈な願望に応えるために、それを任期の最初の目標としました。各位同僚の力強い支えの元で、窮屈の状況は一変し、困難は躍進する契機に変わったのです。ここ数年来、聯盟は東京で多くの大型の中日交流の活動を見事に催して、その中の「東京論壇」——中日経済貿易科学技術交流会は、日本社会に中日交流の実り多いイベントだと評価されています。近年、聯盟と中国の中央政府と地方政府および企業などと密接な協力関係を構築しました。また、日本の国際貿易促進協会、日中友好会館、日中友好協会、日中経済協会、特に川崎市政府、日中産官学交流機構など日本の各界と友好関係を結び、ウィンウィンの事業を数多く展開してきました。

運営方針が時代とともに進むことは、近年の聯盟が迅速な発展を遂げた原動力です。完全に留学生活活動をめぐって事業を開拓する運営方針から、日本社会に立脚して、中日交流活動の定番となるイベントの自主的運営へ；宣伝による影響力の拡大から実務に軸を替へ；勢いよく聯盟のブランドを確立する努力から再び着実に友情を結ぶことを中心とする事業の原点に戻るなど、聯盟は明確な方針に基づいて着実に成長してきました。

中国には「心が大きければ大きいほど、自分の舞台は大きくなる」ということわざがあります。聯盟は在日華人の皆様に活躍できる環境と舞台を作りました。十五年来、鴻鵠の志を持った在日華人の科学技術者エリートたちは聯盟に集まり、学者は学問研究を切磋琢磨し、技術者は専門の技能を向上し、経営者はビジネスチャンスを拡大しました。聯盟では、若者の学生は鍛えられ、働き盛りの学者は能力を發揮することで青春が輝いています。

これまでの歴史を振りかえるのは未来を展望するためです。今後も諸君と共に努力し、聯盟のすばらしい明日を作っていく所存であります。

祝辭

務実 架橋 貢献

中华人民共和国驻日本国大使馆

賀詞

谨此“在日中国科学技术者聯盟”創立15周年之際，谨表热烈祝贺！

美轮美奂之杰，誉满“学术”、“科研”、“金融”、“慈善”四大领域，联

当在奥运会上获得广泛赞誉的中国代表团，近来，热烈欢迎中国科

技代表团、出席、见证并支持刚刚闭幕、备受、力图打造成为世界发展最

具活力的盛会。

希望贵会成立15周年为契机，继续秉持合作共赢、努力

加强国际合作，为服务会员、造福社会、促进中日友好作出新的

贡献！

← 中华人民共和国驻日本国大使馆崔天凯大使贺词

中華人民共和国駐日本國大使館 崔天凱大使による祝辞



中华人民共和国驻日本国大使馆
崔天凯

二〇〇八年十月八日

促进中日世代友好
搭建成科技交流桥梁



国务院侨办 李海峰主任贺词

国务院华侨办公室李海峰主任による祝辞



川崎市市长贺词

川崎市長による祝辞

祝辭

務実 架橋 貢獻

祝辭

務実 架橋 貢獻

賀詞

中國科學院工程技術研究開發中心
工程技術研究開發中心

賀信

賀詞

中國科學技術協會

賀信

日本中國科學技術者研修基金會
日本中國科學技術者研修基金會

賀信

賀信

日本新華僑華人公會

3

4

祝辞

務実 架橋 貢献

博衆衆長
科技興邦

徐敦信
二〇一九年六月

攀登世界科技高峰
心系祖国造福人類

李東翔
二〇一九年六月

科盟成立时中国驻日本大使馆徐敦信大使的题字及李东翔公使衔参赞题字

科盟在设立时由中日两国大使共同题字

祝辞

務実 架橋 貢献

日本国际贸易促进协会
THE ASSOCIATION FOR THE PROMOTION OF INTERNATIONAL TRADE, JAPAN

在日中国学者学者联合会 中

この度、我が国科学技術者連合会は開催を踏み出し、日本の
学術研究と技術の発展に貢献された方々に、我が国と日本の科学
技術及び日本政府の外交に貢献した方々に贈呈いたしました。心から
感謝の意を表す所存です。

日本国际贸易促进协会
理事长 中田慶雄
2019年6月1日

私は中国の科学技術者連合会より開催された祝賀式典に出席する機会を得ました。
1993年1月1日、開催地の北京飯店にて中国科学院院長である張天任先生
が開会の祝辭として開会式典にておこなわれたところを記念します。この1
年間、中国の科学技術者連合会は高水準の国際会議の開催、日本と中国の科学
技術者の交流促進、中国の科学技術者連合会の本部設立、中国の科学技術者連合会
が主導する国際会議の開催等、中国をはじめとする人々の科学技術の発展に貢献して
きました。また、中国の科学技術者連合会は、中国の科学技術者連合会の本部設立
をもとに、中国の科学技術者連合会の第一回の開幕式をもたらす日付に即して開催さ
れましたことを記念しておきます。

2. 1993年の中国、イギリスから開催される科学技術会議に出席した際には
上院議員を務めているアーヴィング・コクス氏を訪ねる。右の写真はその時撮影
の写真です。

祝賀會の開催にあたり、中国をはじめとする人々の科学技術の発展に貢献して
頂いた方々に感謝して下さるよう願っております。

中国の科学技術者連合会の第一回の開幕式をもたらす日付に即して開催さ
れましたことを記念しておきます。

2019年6月1日

祝賀會
理事长 村上立彌

鹏程万里

武大偉

科盟成立十周年时中国驻日本大使馆武大伟大使的题字

科盟成立十周年时村山富市前总理贺词



科盟成立十周年时村山富市前总理贺词

科盟成立十周年时村山富市前总理贺词

日中友好协会
THE CHINA-JAPAN FRIENDSHIP ASSOCIATION

中国の科学技術者連合会より開催された祝賀式典に出席する機会を得ました。
1993年1月1日、開催地の北京飯店にて中国科学院院長である張天任先生
が開会の祝辭として開会式典にておこなわれたところを記念します。この1
年間、中国の科学技術者連合会は高水準の国際会議の開催、日本と中国の科学
技術者の交流促進、中国の科学技術者連合会の本部設立、中国の科学技術者連合会
が主導する国際会議の開催等、中国をはじめとする人々の科学技術の発展に貢献して
きました。また、中国の科学技術者連合会の第一回の開幕式をもたらす日付に即して開催さ
れましたことを記念しておきます。

2. 1993年の中国、イギリスから開催される科学技術会議に出席した際には
上院議員を務めているアーヴィング・コクス氏を訪ねる。右の写真はその時撮影
の写真です。

祝賀會の開催にあたり、中国をはじめとする人々の科学技術の発展に貢献して
頂いた方々に感謝して下さるよう願っております。

中国の科学技術者連合会の第一回の開幕式をもたらす日付に即して開催さ
れましたことを記念しておきます。

2019年6月1日

科盟成立十周年时的祝词

(左上) 日本国际贸易促进协会 理事长
中田庆雄先生

(左下) 日中友好协会会长
平山郁夫先生

(右上) 日中友好会馆 理事长
村上立彌先生

聯盟が設立10周年的際の祝辞

(左上) 日本国际贸易促进协会
中田慶雄理事长

(左下) 日中友好协会
平山郁夫会长、

(右上) 日中友好会馆
村上立彌理事長

概要

在中国科学技术者聯盟（简称科盟，英文为The Association of Chinese Scientists and Engineers in Japan, 简称ACSEJ）是由旅日中国科技人员组成的民间团体。以促进和加强在日本中国科技人员之间、在日本中国科技人员与中国和其他国家特别是日本的有关组织、团体及学者之间的合作和交流为目的，以「务实」、「架桥」、「贡献」为活动宗旨。

科盟成立于1993年5月15日。是在日本创建最早、历史最长的中国科学技术人员组织之一。十多年来，科盟得到了很大的发展。先后设立了日中法律研究咨询会、机械技术者协会、生物科学及环境协会、电子及计算机应用协会、医学与药学协会、在日本中国学者材料学会、中日投资经营沙龙、土木建筑协会、日本MBA华人协会等9个分会。现在科盟拥有会员1500余名（2008年10月），主要分布在日本各大学、研究所以及各大企业中，其中半数以上拥有博士学位。科盟会员的研究领域和工作范围很广泛，有从事计算机技术、信息科学、生命科学、生物技术、机械、材料科学、土木、建筑科学等自然科学的研究工作的学者和技术人员，也有从事法律和经营管理等社会科学研究工作的学者和技术人员，还有从事贸易等工作的商务人员。许多会员已取得杰出成就，成为日本尖端技术领域的带头人。科盟会员在日本创建了上百家企，其中多数企业在对中国建立了分公司。

多年来，科盟以及各分会、研究会通过举办各种活动为祖国和中日友好交流做贡献，受到了中国科技部、教育部、人事部、经贸委、国务院侨办、中国侨联、国家自然科学基金委员会、中国科学院以及各大大学和各省自治区政府等政府及各学术团体的一致好评。近年来，已有众多科盟理事和会员归国创业，其中多人已在国内崭露头角，受到中央电视台和日本NHK电视台等媒体的专访报道。归国创业成功的科盟会员分布在全国各地，最近科盟分别在沈阳、大连、北京、青岛、上海、西安、重庆的归国创业者公司或办公地建立了联络处。科盟今后将继续从务实的角度出发为旅日学子与国内架桥牵线，为祖国的发展作出新的贡献。



7

務実 架橋 貢献

在中国科学技术者聯盟（简称聯盟、英文：The Association of Chinese Scientists and Engineers in Japan, 略称ACSEJ）是中国の元留学生により設立された任意団体で、会員は、日本で学位を取得してから日本に滞在し、大学や研究所、企業等に勤務している方が中心です。聯盟の目的は、会員が日本の関連諸団体との交流、中国政府および関連機関との交流、並びに会員同士の交流を図ることです。科盟は、「務實」、「架橋」、「貢献」を宗旨とし、交流イベントなど会員交流に最も有効な実務を重んじて、日中間の掛け橋を目指し、中国の発展および日中間の交流促進に貢献しています。

聯盟は1993年5月15日の創立大会以来、元留学生の先輩組織として、中国観察団の派遣、日中青年科学技術交流大会の開催、講演会や懇親会など、様々なイベントを開催的に行ってきました。会員には、IT、バイオ、機械、材料、土木、建築、法律、経営管理など、いろいろな専門的な人材が揃っていることを生かし、様々な分科会を設立しました。会員数も約1500名（2008年10月現在）となりました。そのうち、各大学、研究所及び各大手企業で勤めている会員は会員数の約三分の一を占めており、会員の半数以上は博士学位を取得しています。また、会員によって設立された企業の数は日々増え、そのうちの多くは中国で支社を持つています。現在の分科会は以下の通りです：日中法律研究会、機械技術者協会、生物科学及環境協会、電子及計算機應用協会、医学與药学協会、在日本中国学者材料学会、日中投資經營サロン、土木建築協会、日本MBA華人協会。

設立当初から、聯盟および各分科会、研究会はさまざまなイベントを通じて日中交流のために貢献し、中国の科技部、教育部、人事部、经贸委、国务院侨办、中国侨联、国家自然科学基金委员会、中国科学院および各大学と地方政府、学術団体の好評を頂いていました。近年、多くの聯盟の理事と会員が中国で起業し、うち成功し実績を出している人が中国中央テレビや日本のNHKに取材されました。それらの理事や会員は中国の各地にいるので、聯盟も瀋陽、大連、北京、青島、上海、西安、重庆など会員の会社や事務所で連絡所を設立しました。聯盟は今までの経験や人脈を生かし、今後の日中関係で益々重要な掛け橋の役割を積極的に引き受け、日中間友好交流のみならず、経済交流、文化交流など、様々な分野で会員の活動を支援して行くことを目標とし、21世紀の新しい日中関係を築くべく、僅かながらお力を添えたい所存です。

2008年理事会 務実 架橋 貢献

会長：	楊克俊	工学博士	構造計画研究所 Senior研究員、NPO法人COM編集部法人代表
常務副会長：	錢祝慧（女）	法学修士	日産自動車株式会社法務室課長、中国律師
副会長：	楊開滿	工学修士	有限会社Sigma Japan 代表取締役社長
	張亨	医学博士	理化学研究所 Frontier 研究員
	徐行俊	工学博士	上海華桑電子有限公司代表取締役社長
	韓晶岩	医学博士	北京大学医学部教授 天士力微小循環研究中心主任
	劉玉勤	工学博士	龍高Network株式会社代表取締役社長
秘書長：	汪平清	工学博士	株式会社O&E技術部長
副秘書長：	呼格吉勒 周慧（女）	経営学修士（MBA）技研精机株式会社 Accelyrs 東京支社	
理事：	包赤軍	工学修士	三菱UFJ Nicols株式会社上席調査役
	曹東輝	工学博士	日立建機中国支社部長
	戴昭宇	医学博士	日中健康科学会理事長
	段志輝	工学博士	電気通信大学研究員
	何新	工学博士	有限会社Unic Solution Japan 代表取締役
	李鷗	工学修士	国土防災技術（株）技術本部課長、試験研究所研究員
	劉景東	工学博士	横河電機株式会社
	魯云	工学博士	千葉大学講師
	羅延道	工学博士	経営学修士（MBA）株式会社 小森Corporation
	馬衛東	工学博士	上智大学
	寧亞東	工学博士	埼玉大学研究員 大連理工大学教授
	潘海容（女）	工学修士	芝浦Mechatronics 株式会社
	王峰湧（女）	経営学修士（MBA）日産（中国）投資有限公司	
	王昆	工学博士	日本冶金工業研究所研究室 主任
	王勤學	生物学博士	国立環境研究所主任研究員
	王曉	工学博士	株式会社Fluent Asia Pacific 技術部部長
	王晓冬	経営学修士（MBA）株式会社E-Safenet常務取締役	
	王蘿輝	工学修士	北京エヌラ建築規劃設計有限公司總經理
	溫留漢・黒沙	工学博士	新日本技研株式会社、広州大学教授
	肖石尚	工学博士	富士通株式会社
	謝洪燕（女）	経済学修士	愛裸匹圖文制作（北京）有限公司営業部課長
	辛赤邑	法学修士	株式会社JCI 代表取締役社長
	辛平	工学博士	Covalent株式会社Group長
	徐守宇	医学博士	順天堂大学講師
	殷福星	工学博士	独)物質材料研究機構材料ラボ主幹研究員
	張輝	法学博士	(株)技術経営創研代表取締役社長
	張亮	工学修士	上海仁有技術發展有限公司
	張紹良	工学博士	名古屋大学教授
	張錚一	工学修士	横河電機株式会社中国製品食品事業技術主管
	趙紹君	工学学生	株式会社日中Engineering 代表取締役社長
	周哲敏	農業博士	筑波大学特別研究員
	朱世傑	工学博士	福岡工业大学教授
監事：	王平（女）	経営学修士（MBA）Mizuho銀行	
事務局幹事：	林潔（女）	工学学生	NTT Advanced Technology株式会社
	張暉（女）	文学修士	東京日中学院
	李春輝	経済学修士	Mizuho銀行
	林林	工学博士	日建設計
	郭蘿瑛（女）	工学修士	日建設計
	馬驥	医学博士	東京大学
理事会秘書：	魏然（女）	文学修士	東京大学

8

大事記

務実 架橋 貢献

1993年

- 5月 利盟在京成立，任福繼博士任会长
7月 在东京召开化学专业学术会，会报创刊发行
8月 与社会科学研究会在东京共同举办「中国的科学技术与经济发展研讨会」
9月 与日本「留学生后援协会」共同举办「中日友好奨学会」。约200名中国留学生和300名日本友人参加本次交流活动
10月 在东京举办「电子计算机技术专题报告会」
12月 科盟「机械技术者协会」在东京成立
科盟代表团访问北京，走访「中国机械工程协会」并参观国有企业

1994年

- 1月 举办「中国的市场经济与科技・文化・法制等的关系」公开讨论会。科盟「日中经济・知识产权法律研究咨询会」（简称日中法研会）在京成立
4月 在东京召开「生命科学最近的进步」学术讨论会，科盟「生物科学与技术研究会」成立
5月 在驻日使馆教育处成立科盟「电子及计算机应用协会」
7月 在东京举办「中日机电控制技术比较研讨会」
10月 在日本理化研究所举行「地球环境和中国的沙漠化」学术报告会。在横滨华侨总会举办「横滨中街的历史和现状专题报告会」。
11月 在中国驻日使馆教育处举行「中国对日贸易的现状和前景讲演会」。科盟的代表赴北京参加「21世纪中日关系与留学作用」国际研讨会。
12月 科盟年会。任福繼博士连任会长

1995年

- 3月 在日本神奈川县成功举办「中日青年学者国际学术研讨会」。国内众多学术机构派代表参加了会议
7月 利盟作为海外协办单位派46名代表赴北京参加中国科协第2届青年学术年会并组团赴内蒙和珠海等地考察
11月 科盟年会。寿国梁博士任会长

1993年

- 5月 東京で発足、任福繼博士が初代会長に就任。
7月 東京で化学分野の学術会議開催、会報創刊。
8月 「中国の科学技術発展フォーラム」を東京で開催。
9月 日本「留学生后援会」と「中日友好奨学会」を共催。
200名中国留学生と300名日本人友人参加。
10月 東京にて「計算機応用技術報告会」開催。
12月 ACSEJ「機械技術者協会」を東京で設立。
科盟代表团が北京訪問

1994年

- 1月 「中国の市場経済と科学技術・文化・法制との関係」パネルディスカッション開催。ACSEJ「日中経済・知的産権法律研究会」（略称：日中法研会）が東京で設立
4月 東京で「生命科学の最新進展」報告会を開催、ACSEJ「生物科学与技術研究会」設立
5月 「電子及び計算機応用協会」が東京で設立
7月 「中日機電制御技術比較研究会」東京で開催
10月 日本理化研究所で「地球環境と中国の沙漠化」報告会開催。横浜華僑總会で「横浜中華街の歴史と現状報告会」開催。
11月「中日貿易の現状と展望講演会」開催。科盟の代表团が北京を訪問し、「21世紀の中日関係と留学生の役割」フォーラムに参加
12月 年会、任福繼博士が会長再選

1995年

- 3月 神奈川県湘南で「中日青年学者国際学術交流大会」を開催。中国と日本の300青年学者参加
7月 科盟代表团北京訪問、内蒙と珠海等を考察
11月 年会、寿国梁博士が会長選出

大事記

務実 架橋 貢献

1996年

- 6月 科盟「医学与药学协会」在东京成立

1997年

- 7月 「医学与药学协会」学术演讲会
8月 在东京召开「IT企业创业公开讨论会」
11月 在东京举行「游戏软件和通讯专题报告会」
12月 科盟「企业家联谊会」在东京成立。
科盟年会。朱亚峰博士任会长。

1998年

- 7月 医药协会出版专著「日本传统医学现状与趋势」
11月 医药协会代表团应邀赴台湾举行学术报告会
12月 科盟年会。朱亚峰博士连任会长

1999年

- 6月 企业家联谊会在东京举办亚洲经济危机研讨
7月 在东京举办暑期学术交流大会
12月 科盟年会。张中博士任会长

2000年

- 3月 科盟「在日中国学者材料学会」在东京成立
10月 在东京举办「首届留日中国学者21世纪材料科学技术研讨会」并出版论文集

2001年

- 2月 寿国梁博士任会长再选
8月 企业家联谊会在美国驻日使馆举行报告会与美驻日商务参赞探讨亚洲经济形势和中日美关系
9月 企业家联谊会与3Win俱乐部（上海及苏杭地区的留日学人的企业经营者团体）建立友好合作关系
9月 企业家联谊会与3Win俱乐部（上海杭州的留学生起企业家团体）建立友好合作关系

大事記

務実 架橋 貢献

2002年

1月 科盟年会、辛平博士会長
6月 在鞍山协办「第三屆國際先進材料和技術論壇」
来自11个国家和地区的200多名海内外学者专家参会
8月 在东京举办「在日华人IT企业经营论」报告会

2003年

1月 科盟年会、楊克儉博士会長
3月 在长野县举办会员联谊运动会。科盟在沈阳、大连、北京、青岛、上海、西安、重庆、成都、深圳设办事处
6月 在北京国际交流馆举办盛大「科盟设立十周年纪念大会」。科盟会员，中国驻日使馆公使、总领事、日本众议院议员及各日中友好团体代表等300余人出席大会。科盟成立「土木建筑工程协会」和「创业投资研究会」，科盟会员总数突破1000人。为抗议非典捐资，向北京中日友好医院捐款空气净化器
7月 创业投资研究会、企业家联谊会、电子及计算机应用协会与国内软件企业界人士举办交流会
8月 在东京举办与辽宁省科技厅的交流活动。
9月 作为发起人团体之一参与创立「新华侨华人会」
12月 在中国驻日使馆举办「中关村创业经验交流大会」
科盟年会。楊克儉博士连任会长

2004年

3月 组织日本振兴东北支援委员会代表团访问国务院侨办、外交部领事司、中共中央统战部、中国侨联、全国政协和中国致公党，访问沈阳、大连、本溪、盘锦、抚顺、长春、哈尔滨。科盟会员扩大在东北创业的事业。
4月 辽阳市长访问东京与科盟交流
4月 与沈阳市科学技术局代表团座谈交流
6月 在东京国际交流会馆主办「2004东京论坛—暨中日经济贸易文化交流促进会」。北京、新疆、辽宁、大连、南京、鞍山、盘锦、无锡等省市自治区10个代表团参加大会。大会得到中国科协、中国驻日本大使馆、国务院侨办、中国侨联和日本地方政府、企业和贸易团体的大力支持。川崎市经济局、东京都城市规划局、神户市产业振兴局、日本国际贸易促进协会和日本政界、经济界人士参加交流大会。日本媒体称赞「东京论坛」实现了众多中国代表团同时与日本各界多层面交往，为中日高效交流的典范，盛赞科盟全力以赴志愿者活动的形式成功举办超大型的国际交流活动。

2002年

1月 年会、辛平博士を会長選出
6月 中国鞍山で「第三届国际先端材料技术ノーラム」を開催。11ヶ国と地区的約200名学者が参加
8月 東京にて「在日中国人IT企業経営論」報告会を開催

2003年

1月 年会、楊克儉博士を会長選出
2月 联盟ホームページ全面リニューアル
3月 長野で聯盟会員スポーツ大会を開催
聯盟が沈阳、大連、北京、青島、上海、西安、重慶、成都、深圳に事務所設置
6月 東京国際交流館、「在日中国科学技術者聯盟成立十周年記念大会」を開催。中國大使館公使、總領事、日本衆議院議員、日中友好團体代表などと聯盟の会員300人以上が出席。同日に「ACSEJ土木建築協議会」、「ACESEJ創業投資研究会」が設立。会員数は初めて1000名を超える。
SARS募金、北京中日友好医院に設備寄付
7月 創業投資研究会、企業家聯説会と電子及計算機応用協会は中国人手ソフト企業と交流会を開催。
8月 東京にて遼寧省科技厅と交流会
9月 発起人団体として「日本新華僑華人会」を設立
12月 東京で「中関村創業経営交流大会」を開催。
年会、楊克儉博士が会長再選

2004年

3月 在日中国人による東北振興支援委員会結成、北京市中央政府の国务院侨办、外交部、中国侨聯、中国政協（参議院）および中国致公党を訪問、東北地方政府の沈阳、大連、本溪、鞍山、盤锦、遼陽、撫順、長春、ハルビンを訪問、科盟会員が東北で事業を広く展開。
4月 遼陽市長が東京を訪問し聯盟と交流
4月 沈陽市科学技术局代表団座谈交流
6月 東京国際交流会館にて「2004、東京論壇—日中經濟文化交流促進会」を開催。中国各省、市から十数個の政府及び民間企業代表团が参加し、日本企業と中国留学生に向け、幅広い地域と分野に渡り、中国の投資環境と人材・投資誘致政策の紹介などをを行い、講演、交流、商談を重ねた。日本側も川崎市经济局、東京都都市整備局、神戸市産業振興局と一部日本の経済団体と日本企業が参加し、都市整備経験、産業振興政策などを紹介したほか、中国代表团の方々と直接な情報交換を行った。「2004東京論壇」は、日中地方政府や企業の間で多分野、多地域、多レベルな交流を短期間で実現したため、情報発信量が多くかつ効率の高い日中経済交流イベントの一例として、また、在日中国人任意団体の完全なボランティア活動により主催、運営した大型国際交流イベントとして、日中各方面から高評された。

大事記

務実 架橋 貢献

2004年

6月 科盟代表团参加大连6/29创业周
8月 在沈阳工业博览会参展科盟展台
9月 参加厦门海外留学人员高科技交流会
11月 与广州市政府代表团交流
12月 参加第七届广州留学生交流会

2004年

6月 科盟代表团参加大连6/29 创业週に参加
8月 联盟が瀋陽工業博覧会に参展
9月 アモイで海外留学人員ハイテク交流会に参加
11月 広州市政府代表团と交流
12月 联盟代表团が第7回広州留学生交流会に参加

2005年

1月 利盟年会，在东京举办跨学科的科普交流大会。日本MBA华人协会正式加入科盟。
3月 与辽宁省政府代表团（省政府副秘书长、科学技术厅副厅长、大连开发区领导等）交流
4月 与沈阳市科学技术局代表团座谈交流
6月 科盟代表团支援大连6/29创业周
8月 参加日本新华侨华人会代表团，访问国务院侨办，全国人大华侨委
9月 在东京大学体育馆举办「科盟土木杯排球联赛」
10月 在「2005东京论坛—中国创业投资环境、日中科学技术经济贸易交流会」召开，王毅大使、阿部孝夫川崎市市长等出席。科盟医药协会主办世界中医药学术大会。
10月 欧美同学会代表团访日
11月 与广州市政府代表团交流
12月 科盟代表团参加第八届广州留学生交流会

2005年

1月 会员大会と科学技術交流大会を開催、多分野学術交流。日本MBA华人協會が聯盟に加盟。
3月 遼寧省政府代表团（省府副秘書長、科技技術廳副廳長、大連開發區責任者等）と交流会
4月 沈陽市科学技术局代表团座談交流
6月 联盟代表团が大連6/29 创業週に応援
8月 日本新華僑華人会代表团に参加し、國務院華僑事務弁公室、全国人大華僑工作委員会などを訪問
9月 東京大学体育馆にて「聯盟土木盃バレー大会」を開催。
10月 川崎市産業振興会館で「2005 東京論壇——中国創業投資環境、日中科学技术経済貿易交流会」を盛大に開催。王毅大使、阿部孝夫川崎市長等出席。聯盟医薬協会が世界中医药学术大会を開催。
10月 欧米同学会代表团訪日
11月 広州市政府代表团と交流
12月 联盟代表团が第8回広州留学生交流会に参加

2006年

3月 科盟年会，楊克儉博士连任会長。楊克儉参加“两会”。
4月 接待全国人民政治协商会议代表团
7月 在东京大学体育馆举办「科盟土木杯排球联赛」，日方组织参赛，土木杯为科盟主办的品牌体育联谊活动。
8月 与全国人民代表大会华侨工作委员会在北京交流
10月 参加“大使接待日活动”
12月 参加第九届广州留学生交流会
在川崎市产业振兴会馆举办「2006东京论坛—中小企业的发展与海外进出」。科盟材料学会举办学术交流大会。

2006年

3月 会员大会、楊克儉博士を会長再選。「两会」（全人代と政治協商會議）に出席
4月 全国人民政治协商会议代表团訪日対応
7月 東京大学体育馆で「第二回聯盟土木盃バレー大会」を開催。日本側の参加あり、「土木盃」は聯盟主催の有名なスポーツ大会になった。
8月 全国人民代表大会华侨工作委员会と北京で交流
10月 「大使接待日」活動に参加
12月 联盟代表团が第9回広州留学生交流会に参加
川崎市産業振興会館で「2006东京論壇—中小企業の発展と海外進出」を開催。聯盟材料学会が学术交流大会を開催。

大事記

務実 架橋 貢献

2007年

- 4月 接待福家宝总理訪日
- 7月 在东京大学体育馆举办「科盟土木杯排球联赛」
- 9月 接待贾庆林政协主席访日
- 9月 参加第9届世界华商大会
- 9月 接待中国华侨联合会副主席林淑娘一行
- 11月 科技与生活报告会及会员交流舞会
- 12月 科盟代表团参加第十届广州留学生交流会

2008年

- 3月 科盟年会，杨克俊博士连任会长
- 5月 赶赴长野参加北京奥运圣火传递活动
- 5月 组织会员向四川地震灾区捐款，成立四川震灾支援项目专家委员会
- 5月 科盟和南京市外专局共同举办“南京市政府吸引海外高层留学人员恳谈会”
- 7月 科盟土木专家赴四川灾区考察，赴北京科技部为震灾复兴建言
- 8月 杨克俊作为日本华侨华人代表应邀出席奥运会闭幕式
- 9月 于中野体育馆举办第四届土木杯排球赛
- 科盟代表团回国参加大连海外学子创业周
- 钱祝贺代表科盟参加中国科协海外智力为国服务计划活动及2008相约上海共谋发展活动



13

分会

務実 架橋 貢献

電子およびコンピューター学会

ACSEJ电子及计算机应用协会是在日中国科学技术者联盟(简称ACSEJ)的下属团体,于1994年5月29日在日本东京成立。电子及计算机应用协会为贯彻科盟的“务实·架桥·贡献”的宗旨,汇集在日本从事计算机软硬件工程、电子、网络通信、测量、自动控制、无线通讯、遥感、光电子等专业的科学技术人员,开展各种交流活动。协会目的是加强在日中国科学技术工作者之间的交流,促进在日中国科学技术工作者与中国及日本团体或个人的交流。

本协会自成立以来,多次举行各种交流活动。其中包括学术交流、技术交流等各种讲座及多种联谊活动。同时协助科盟举办大型活动,包括国际学术研讨会、科教育科学工作者年会和东京论坛等。



会長：劉景東 →
工学博士 橋河電機株式会社



生物と環境協会

在日中国科学技术者联盟生物科学与技术研究会为在日本各大学、企业及研究所从事有关生物领域研究的中国科学技术工作者和留学人员的研究会。研究会的目的是加强在日本生物科学技术工作者之间,在日本中国生物科学技术工作者与中国国内以及日本生物科学技术领域的有关组织、团体和学者之间的学术交流,提高研究水平,促进两国生物科学技术的交流合作,除了定期举办各种形式的学术报告会和讨论会以及编辑出版研究会会讯和学术刊物以外,还积极地与中国国内科学界进行具体的学术交流活动;相互提供信息;促进国与国之间的合作和共同研究。



会長：王勤學 ↑
生物学博士 国立環境研究所 主任研究員

科盟生物与环境协会的前身是生物科学与技术研究会。1994年4月9日成立,1996年1月21日与生物与环境协会正式合称。其宗旨是生物与环境分野上活跃着在日华人研究者的间的学术交流,强化生物与环境分野上的组织、团体及学者间的学术交流,提高研究水平,促进两国生物科学的交流合作,以及编辑出版研究会会讯和学术刊物以外,还积极地与中国国内科学界进行具体的学术交流活动;相互提供信息;促进国与国之间的合作和共同研究。

ここ10年間、特に中国国内の研究者との交流を重視しており、2004年に開催された新春学术交流会では、中国科学院の訪問者、日本関東地区の大学と研究所から30数名の学者が国立環境研究所に集まり、各自の研究成果を講演し、活発な議論を行った。そして、2006年に中国科学院、北京師範大学、長江水利委員会など国内の研究者7名と筑波大学、東京大学、農業環境技術研究所、国土技術政策総合研究所及び国立環境研究所の代表など20数名の研究者が集まり、地球温暖化研究と水環境管理対策などテーマを中心に、基礎研究から技術対策、微気象から地球規模まで幅広い分野で研究交流を行った。うち、地球温暖化と関連性大きい炭素循環、富栄養化による水汚染対策、南北北調の影響などの話題に関して、活発な議論があり、大きな関心を集めた。

14

分会

日中法研会

本会は「在日中国科学技術者聯盟」の下に、中日双方の現状を把握し、実務者による意見交換や情報交換を行うための組織です。主な活動は、定期開催のセミナー、会員間の連絡会、国際会議への参加等です。

本会は、中日双方の技術者による意見交換や情報交換を通じて、両国の技術者間の相互理解を深め、技術の発展と社会の発展に貢献することを目指しています。

- ① 中日两国の研究者、実務担当者を対象とする特別講演会の開催
- ② 会員の研究テーマや業務などの情報交換
- ③ 日中両国の関連情報の交換及びネット上の情報交換
- ④ 必要かつ可能な場合、コンサルティング業務を提供



会長：張輝（右写真左一）
(株)技術経営副代表取
締役社長 法医学博士

日中法研会

本会は「在日中国科学技術者聯盟」の下に、中日双方の現状を把握し、実務者による意見交換や情報交換を行うための組織です。主な活動は、定期開催のセミナー、会員間の連絡会、国際会議への参加等です。

本会は、中日双方の技術者による意見交換や情報交換を通じて、両国の技術者間の相互理解を深め、技術の発展と社会の発展に貢献することを目指しています。

- ① 中日两国の研究者、実務担当者を対象とする特別講演会の開催
- ② 会員の研究テーマや業務などの情報交換
- ③ 日中両国の関連情報の交換及びネット上の情報交換
- ④ 必要かつ可能な場合、コンサルティング業務を提供



会長：王曉 工学博士
(左写真発言者)
(株)Fluent Asia
Pacific 技術部部長



医学及び薬学会

本会は「在日中国科学技術者聯盟」の下に、医学・薬学会として活動する組織です。主な活動は、定期開催のセミナー、会員間の連絡会、国際会議への参加等です。

本会は、中日双方の技術者による意見交換や情報交換を通じて、両国の技術者間の相互理解を深め、技術の発展と社会の発展に貢献することを目指しています。

- ① 中日两国の研究者、実務担当者を対象とする特別講演会の開催
- ② 会員の研究テーマや業務などの情報交換
- ③ 日中両国の関連情報の交換及びネット上の情報交換
- ④ 必要かつ可能な場合、コンサルティング業務を提供



会長：張卓（右写真右一）
理化研究所、Frontier研
究員 医学博士

分会

務実・架橋・貢献

機械技術者協会

「在日中国機械技術者協会」（以下簡称協会）は所屬する「在日中国科学技術者聯盟」（英文縮写ACSEJ）の專業性的組織、成立于1993年12月19日。協会主要由在日本企业和大学从事机械工程领域技术或学术研究工作的中国科学技术工作者及留学人员组成、会员分别从事机械设计、自动控制、焊接、精密机械加工、建设机械、油压与空气回路、内燃机等领域的学术与技术工作。

协会成立的目的是加强在日中国机械技术工作者以及在日中国机械技术工作者与中国和日本机械工程领域有关组织与学者之间的交流和合作，以促进科学技术的发展及中国机械工业的现代化。

协会开展的主要活动有：

- ① 召开机械工程领域的学术与技术交流会。
- ② 与中日两国机械工程领域的有关组织与学者进行交流和合作。
- ③ 组织会员之间的各种联谊活动，增进彼此间的了解及互助。
- ④ 组织考察团回国考察国内经济建设情况及技术发展动向，并邀请国内知名人士介绍国内的经济形势及对留学生的期待，向国内政府及有关方面反映在日中国机械技术工作者的建议和要求。
- ⑤ 促进中日两国机械生产厂家之间的交流与合作，向国内企业介绍日本的先进技术，向日本企业介绍中国企业的投资环境及发展前景。



会長：王曉 工学博士
(左写真発言者)
(株)Fluent Asia
Pacific 技術部部長

材料科学会

本会名称为「在日中国学者材料科学会」、1999年正式成立并同时加入「在日中国科学技術者聯盟」。本会目的在於加强在日中国材料科学工作者、在日华人材料科学技術者及在中國国内、日本材料科学領域の有志组织、团体和学者之间的学术交流；提高研究水平；促进两国材料科学和技术的合作。

主要活动有：

- ① 召开学术讨论会、进行学术交流。
- ② 编辑出版研究成果论文集和专著。
- ③ 编辑中日两国的实际情况、协助两国间的学术交流和共同研究。
- ④ 组织会员积极参加中国国内举行的各类学会和研讨会。
- ⑤ 加强与国内各研究机构、大学以及访日材料科学代表团的学术交流。
- ⑥ 为从事材料科学和技术研究的学成回国者提供就职的信息。
- ⑦ 向中日两国有关团体、组织和个人提供咨询服务。
- ⑧ 出版发行「材料科学会通讯」。



会長：巨東英 埼玉工業
大学教授（前排右一）

務実・架橋・貢献

機械技術者協会

「在日機械技術者協会」（以下簡称協会）は聯盟に付属し、1993年12月19日に設立された。日本の企業や大学で機械工学分野に從事している技術者及び學術研究者である中国の科学技術者や留学生によつて構成されたり、会員は機械設計、自動化制御、溶接、精密機械加工、建設機械、ガス圧と空気圧、内燃機等の分野に集中している。

協会設立の目的は、中日両国の技術者間及び在日の中国機械技術者が中国、日本の機械分野の関連組織及び学者の間の交流と協力を強化し、科学技術の進歩と中国機械工業の現代化を促進することである。

協会が展開している活動は下記のとおり。

・機械工学分野の学術及び技術交流会を開催・中日両国の機械工学分野の組織、学者間の交流と協力を展開

・会員を対象とする交流活動を展開し、相互理解と互助を増進

・中国国内の経済建設状況及び技術発展動向を把握するための帰国考察団派遣し、国内の有名人を招請し、国内の経済技術の紹介や留学生に対する希望の講演を開催、国内政府や関連機関に在日中国機械技術者の提案や要望を伝える。

・中日両国機械設備製造業者間の交流と協力を促進し、国内企業に日本の先進技術を紹介し、日本企業に中国企業の投資環境と発展性を紹介する。



材料科学会

在日中国学者材料科学会（略称：材料科学会）は、1999年に設立され同時に聯盟に加入了。材料科学会の目的は、日中の材料科学技術者間、在日華人材料科学技術者及在中國国内、日本材料科学領域の有志组织、团体和学者之间的学术交流を強化し、研究水準の向上、両国の材料科学技術の交流と強化することである。

主な活動は：

- ① 学術シンポジウムの開催、学術交流の展開
- ② 研究業績の論文集や著作物の編さん
- ③ 日中両国の実情に合わせて、両国間の学術交流と共同研究を協力する
- ④ 会員が中國国内の学会やシンポジウムの参加の手配とサポート
- ⑤ 中国国内の各研究機関、大学及び訪日材料科学技術代表团との学術交流の強化
- ⑥ 材料科学技術研究の留学人員の中国に当たって就職情報の提供
- ⑦ 日中両国の団体、組織、個人にコンサルティング業務の提供
- ⑧ 「材料科学会通信」の出版刊行



分会

務実 架橋 貢献

土木建築協会

在中国科学技术者聯盟「土木建築協会」是由在中国科学技术人员设立的任意團体,会员是以在日本的大学、研究所、企业等工作人员及留学生为中心。协会致力于中国人会员之间的交流、中国人会员与日本及中国的有关机关的交流。协会与利盟同样以「务实」「架桥」「贡献」为宗旨,以交流活动等最有效的实务为主,作为日中之间的桥梁,为中国的发展及日中间的交流促进做贡献。

在技术发展及交流日益频繁的现代社会,土木建筑行业也有了巨大发展。「在中国科学技术者聯盟-土木建築协会」在地震海啸等防灾工程、高层建筑设计与施工、重大土木建筑的结构健康监测管理、人类似居改善、环境问题等方面,专业人士聚集,通过各种交流活动为日本社会和祖国的发展做出了应有的贡献。本会在学术和技术交流之外举行的「土木杯」在日本华人排球大奖赛已成为科盟及在日本人的定例体育盛会。



会長:李鶴(下写真左二)
国土防災技術(株)
技術本部課長、試験研究所
研究員 工学修士



日本MBA华人协会

日本MBA华人协会是在2001年日本大学研究生院国际・商务研究科发起的新生团体,2005年加入在中国科学技术者聯盟。在日本取得MBA学位的华人为主体,对企业经营持有兴趣,具有学士以上的学历的都可成为会员,以「沟通、提高、创造」为本会宗旨。现在会员有100名左右。自从设立以来的主要活动有:

- ① 日本MBA华人协会经营管理体系书籍的出版。已在中国出版2册。
- ② 每年召开4回的会员交流会
- ③ 与日本大学、中国管理学会共同召开中国物流管理者研讨会
- ④ 举办大型研讨会和中日经济界高层峰会



会長:徐大軍(左写真右二)
三菱重工株式会社
左起王平監事、謝洪燕理事、徐大軍、錢悅慧

土木建築協会

土木建築協会(略称:土木協会)は在中国科学技術者によって設立された任意團体で、日本の大学、研究所、企業などに働いている在日中国人や留学生が主な会員である。協会は中国人会員間の交流、中国人会員が日本及び中国の関連機関との交流に取り組んでいる。協会は「実務、架橋、貢献」を宗旨とし、交流活動など最も効果的な実務活動を中心日に中間の架け橋となり中国的の発展及び日中間の交流に貢献している。

技術発展が進展し、交流が頻繁である現代社会においては、土木建築業界は大きな発展を遂げている。土木協会に地震、津波などの防災プロジェクト、高層ビルの設計、重大な土木建築構造の維持環境管理、人类似居の改善、環境問題の分野において専門家が多く、各種の交流活動を通じて日本社会と祖国の発展のために貢献してきた。本会は学術・技術の交流以外に、「土木盃バレー大会」は科盟及び在日中国人の定例のスポーツ大会になっている。



日本MBA華人協会

日本MBA華人協会は2001年日本大学大学院国際・ビジネス研究科で成立された団体で、2005年から在中国科学技術者聯盟に入会した。日本でMBA学位を持っている在日中国人が主で、また企業経営に興味を持つ、学士以上の学位を持っている華人も会員になる。協会は趣旨は「コミュニケーション、向上、創造」。現在100名近くの会員があり、設立以来、下記の活動に取り組んできた。

- ① 経営管理分野の書物の出版。中国で2冊を出版した。
- ② 年に4回会員大会の開催。
- ③ 日本大学、中国管理学会と共同で中国物流管理者シンポジウムを開催。
- ④ シンポジウムと日中経済連携サミットの開催。



分会

務実 架橋 貢献

中日投資經營サロン

2006年3月10日通過合併当时同為科盟分会的「企业家联谊会」と「在日中国人创业投资研究会」を合併させ、設立したものである。活動の目的は、会員に情報交換の機会と場を提供し、情報共有・交換の効率の向上、会員企業の規模の拡大と競争力の向上のために、華人企業に切実なサービスを提供することである。現在、会員企業は約70名である。

本会前身之一の企业家联谊会中文全称为「旅日华人高新技术企业联谊会」,日文名称为「在日中国科学技术者聯盟企业家联谊会」,于1997年12月在日本的東京正式开始活动。其目的是促进在日华人企业家、创业者相互交流和相互提携,促进在日华人企业的蓬勃发展。会员都是在日高科技企业的华人经营者,企业总数达60余家,雇员超过1000人。在中国创业企业也有20余家。近年来,新一代旅日华人学者创建了众多的高科技产业,令日本社会刮目相看。日本NHK电视台曾经对此进行了特别报道。目前,在日本华人企业的发速度惊人,业务内容广泛,已在日本经济中崭露头角。

本会前身之二的「在日中国人创业投资研究会」成立于2003年6月8日,是隶属于科盟并自主开展有关创业投资及创业投资管理的研究、交流和服务活动的专业分会。会员主要由创业者、投资者及创业投资相关咨询服务商构成。成立目的是加强有助于从事创业和创业投资的研究与实务活动的在日中国科技人员、留学生、金融界及商业界人士之间的联系,沟通会员与中国相关政府部门、金融机构、创业投资机构和投资管理机构等的关系,推动会员的科技成果转化和回国创业活动。

今后,随着中国的发展和国力增强,中国经济在整体世界经济中所处的地位会越来越重要,在日本华侨华人的商业空间也会越来越大。特别是近年来以中国来归国科技人员为中心成立的企业,社会起点高,有独特的技术,与中国交往密切,而且经营者思维敏锐,受过良好的教育等等特长突出,具有许多局部优势。多数在日本华侨华人企业经过数年的经验和积累,逐渐日本商业习惯和各种渠道,成为中日商务往来时不可替代的桥梁。这些成果,为在日华人企业的进一步发展打下了良好基础。



人物

務実・架橋・貢献



任 福繼

聯盟設立発起人の一
人。1993年6月に第一期会長就任、1994-1995年に第二期会長に再任。聯盟宗旨である「務実・架橋・貢献」の提案者。

日本国立徳島大学教授、Intelligence Information System Engineer学部長。中国科学院海外評審専門家、北京邮電大学「長江学者」客員教授。工学博士

寄語科盟：

科盟创立以来の15年历程证明了科盟的宗旨是经得起时间和岁月的考验的。任何时候，如果偏离了宗旨，科盟的发展就将停止，会员及组织的利益就将受到损失。

我是这样理解科盟宗旨的：所谓“务实”，就是实实在在，不图大图虚。因为会员、理事各自有其自身的本职工作，所以我们不贪大求全，我们能够做一点就是一点。所谓“架桥”，是指科盟的主要任务是为会员提供科学技术交流的场所，为中国国内的和旅日的科技工作者以及日本的科技工作者的交流和合作架起一座座桥梁；所谓“贡献”，就是通过科盟的活动，使会员从最大限度地发挥其才智，为科学技术的发展和人类的和平幸福做出我们的努力，并使之结出丰硕的果实。

引用1993年科盟成立大会上科盟创立经过介绍发言中的一段话来寄托对科盟的期待：“东方即将迎来世纪的曙光。我们等待，我们盼望，我们迎接着新世纪的一轮喷薄欲出的朝阳。我们将跨越世纪之交，这乃天赋予我辈之惠。我们闯荡在东瀛之邦，此乃地赋我等之机。我们称雄于科技之园，更是时代赋予我们之重任。我们昨天还不曾相识，我们今天却已相知。是探求真理的好奇心以及对逻辑秩序或普遍性的追求将我们紧紧地连接在一起。期望科盟能成为你的、他的和我们的希望和奋斗之园！”

聯盟へのメッセージ：

聯盟の宗旨は設立以来15年間で歳月の検証を経てきたものであります。いつになつても、その宗旨を乖離したら、聯盟の発展が停止し、会員や聯盟の利益も害されることになるでしょう。私は聯盟の宗旨をこう理解していまます：「務実」とは実りのあることを実行し虚栄を求めない、できるところから実行すること；「架橋」はつまり聯盟の主要任務は会員のために交流の場を提供し、中国国内および在日の科学技術者のための橋掛けになること；貢献とは聯盟の活動を通じて会員の智恵と能力を最大限に発揮し、科学技術の発展に貢献することです。

我々は聯盟を通して他人から知人になりました。聯盟がこれからもみんなの奮闘の土台と希望の楽園になると期待しています。

科盟创始期筹备委员会主要成员之一。1995年11月-1996年12月及2001年2月-2002年1月兩度就任会長。

1983年来日留学。1986年在日本信州大学取得工学硕士学位。1989年在日本东京大学取得农学博士学位。专攻生物测定学、模拟神经网络微电子元件。曾在鹰山株式会社微电子元件研究开发中心任取締役部长。2001年2月在北京创建的六合万通微电子技术有限公司现已成为中关村海归名牌企业。现为北京六合万通微电子技术有限公司董事长。

聯盟設立準備委員会のコアーメンバーの一人。1995年11月-1996年12月と2001年2月-2002年1月に二度と聯盟会長に在任。

1983年に日本に留学。1986年に日本信州大学にて工学修士学位を取得。1989年に日本東京大学にて農学博士を取得。鷹山株式会社研究開発センター取締役部長を経て、2001年に北京で六合万通微電子技術有限公司を設立。同社は北京中關村サインスパークにおける「海帰組」（海外留学帰国組）企業のモデルとされており、知名企業に成長しています。



寿 国梁

聯盟二代目会長。1995年11月-1996年12月、2001年2月-2002年1月に会長に在任。農学博士

人物

務実・架橋・貢献



朱 亞峰

聯盟設立発起人の一
人。三代目会長。1993年6月-1999年10月副会長に在任し、1997年12月-1999年11月に会長に在任。聯盟生物科学技術研究会第1-5期会長。Dinavec株式会社常務取締役兼事業開発本部長。工学博士。

寄語科盟：

衷心祝賀科盟成立15周年！近年由于工作等原因未能更多地参与到科盟的工作中，但每当在新闻报刊上看到科盟的活跃消息都会感慨和激动。

现在回想起来，1992年，包括我在内的8名来自日本的留学人员参加了中国科学技术协会主办的首届青年学术年会，通过参会我们深切地意识到自己缺乏信息来源，于是商讨成立一个大家联络沟通的平台，这就是设立科盟的契机。

科盟成立之后有很多留学生团体相继成立，特别在进入信息化时代的今天，大家获得信息的渠道也日渐丰富和多样，但科盟依然以“务实·架桥·贡献”为宗旨开展着各种各样的活动并一如既往地得到了广大会员的信赖和支持。这是包括现任理事会在内的历届理事会成员和热爱科盟的会员们共同努力的结果。我发自内心地向他们表示敬意。

聯盟へのメッセージ：

聯盟設立15周年にあたって、心からお慶びを申し上げます。近年は仕事の関係もあり聯盟の活動にあまり参加できていませんが、新聞とニュースなどで聯盟の活躍ぶりを見習していつも感激しています。

今思えば、1992年に日本から8名の方とともに中国科学技術協会首届青年学术年会に参加したとき、我々の情報源の乏しさに驚き、日本でも皆さんの交流の場を作りたいとの想いが湧いたのは設立検討のきっかけでした。同じ熱意を持つ仲間が毎週末に集まり、会の名前、形態や活動内容などに関する議論が重なる中で聯盟の名前、そして今も多くの団体に模倣される「務実・架橋・貢献」の宗旨が生まれ、感動と興奮の連続でした。

その後、留学生団体が次から次へと設立され、特に情報化時代に入り、皆さんがいろいろなチャンネルから情報を得ることが出来るようになりましたが、聯盟は「務実・架橋・貢献」との宗旨のもと、依然として多くの会員から信頼され、様々な活動を展開していることは、今の理事会を含め歴代の理事会メンバーと聯盟を愛する会員たちの努力の結果です。心から尊敬の意を申し上げます。

科盟創立初期的主要负责人之一。1999年12月-2001年1月会長。

1991年于日本东北大学取得工学博士学位后就职于富士通株式会社。专业研究领域为数字通信处理、音声识别。1997年任富士通株式会社驻北京事务所微机部门总经理。2003年回国，现任职于北京视信源科技发展有限公司。

聯盟設立初期的主要責任者の一人。1999年12月-2001年1月は会長に在任。

1991年に日本東北大學にて工学博士号を取得後、富士通株式会社に就職。専門はデジタル通信処理、音声識別。1997年より富士通株式会社北京事務所パソコン部門総經理。2003年に帰國し、現在は北京視信源科技發展有限公司に勤める。



張 中
聯盟四代目会長。1999年12月-2001年1月に会長に在任。工学博士。

人物

務実 架橋 貢献



辛 平

2002年2月-2003年2月に聯盟第五代会長として在任。同時期に材料学会会長を兼任。Covalent Material株式会社技術部長。工学博士。

1992年来日。1994年に日本创办NPO法人COM编辑部发行日文网络杂志「华声和语」和中文网络杂志「东北风」。1996年获得日本东北大学建筑结构专业博士学位。

寄语科盟：

在刊发寄语上已写了许多，在这里最想说的是最重要的四个字“感谢！”和“见谅！”。衷心感谢多年来和我并肩奋斗的科盟理事会各位成员，没有各位同仁的无私奉献和艰苦努力科盟不会有今天的发展；感谢科盟创立时期的兄长们，各位的开创精神和经验积累为科盟发展奠定了基础；感谢科盟广大会员，各位的热心参与和支持是科盟事业发展最根本源泉；感谢全体海内外友人以及中日各界的媒体朋友，因各位的鼎力相助使得科盟的事业更加辉煌。恕我不能在此一一列举上各位朋友的名字，谨请接受来自心底的谢意！本纪念册篇幅有限，没能够收录进来的人物和活动还很多，在此敬请原谅，自知任职期间虽用心但难免有不周之处所以在乎要道一声“见谅！”。

1992年来日。1994年に日本でNPO法人COM編集部を創設し和文ネット雑誌「華声和語」と中国語ネット雑誌「東北風」を発行。1996年に日本東北大工学博士号取得。

兼任：中華海外聯誼會理事、中國語ネット雑誌「東北風」を発行。1996年に日本東北大工学博士号取得。

聯盟へのメッセージ：

この場を借りて皆さんに「御礼」と「ご諒解」を申し上げたいと思います。聯盟の先輩たちの開拓精神と経験の積重ねが聯盟の発展に良い基礎を築き上げ、理事の皆さんの長年に渡る無私の奉仕が聯盟を成長させ、多くの会員たちの熱意と積極的参加が聯盟に活力を保たせ、更に世界各国の友人や中日両国のアカデミーの方々も聯盟に脚を伸じた・・・皆さんに深く感謝の意を申し上げます。また、在任中は周到に出来なかったこと也有ったと思いますので、ここでご諒解いただくようよろしくお願い申し上げます。



楊 克 廉

現任会長。2003年2月に六代目会長として就任し、現在に至る。

1996年に聯盟に入会。翌年に聯盟企業家聯誼會を創設し、2001年まで同会事務局長に在任。2002年に聯盟副会長を経て、2003年より現職。

構造計画研究所Senior研究員、NPO法人COM編集部（東京）代表。工学博士。

人物

務実 架橋 貢献



錢 祝 慧

現任常務副会長。
1997年より理事に選任され、常務理事、事務局長、副会長を歴任。中日投資経営Salon副会長。

日産自動車株式会社法務室Manager。中国法律。

聯盟へのメッセージ：

来日の翌年、まだ日本語もまもなく時から聯盟と出会い、以降13年間は絶えずに聯盟の活動に関わってきました。聯盟のために多大な時間と精力を費やしましたが、大型国際交流イベントの企画や聯盟という非営利組織の運営などをこなしていくなかで、視野を広げ、経験を積むことができ、自分なりに成長したと言えます。聯盟のおかげで、専門以外の仕事を経験でき、会社以外の社会を知れ、何より、聯盟を通じてたくさんの素晴らしい友人を持つことができ、また、自分の奉仕がたくさんの知らぬ人に認められ、感謝されることとは、何よりの収穫です、一生誇れる思い出です。

1992年赴日留学。1998年获得东京大学电子工学专业博士学位后，就职于亚洲航测株式会社，从事图像处理和地图自动更新处理的研究及技术开发。2007年加入O&E株式会社，负责实时图像处理以及相关软硬件的开发。

寄语科盟：

旅居海外、信頼交流の必要。我以为，“務実・架橋・貢献”的宗旨正好满足了我们这些海外游子的需求。尽自己所长，起到作为一名旅居海外华人所特有的桥梁作用，在充实自己的同时，服务于人，贡献于国。希望科盟在为旅居华人提供不可或缺的交流平台的同时，日益成熟和发展。

1992年留学来日。東京大学にて電子工学博士号取得後、アジア航測株式会社に就職し、画像処理と地図融合・更新処理の研究開発に従事。2007年より現職、リアルタイム画像処理と関連ハードウェア・ソフトウェア開発に従事。

聯盟へのメッセージ：

異国に暮らしていると特に交流の必要性を感じ、交流による充実感を求めます。聯盟の「務実・架橋・貢献」の宗旨はまさにその需要を満たすことができます。自分の長所を發揮し海外に居る華人にしかできない架け橋の役割を果たし、自分を充実させたと同時に人にサービスを提供し國に貢献します。聯盟がこれからも在日華人に不可欠な交流の場を提供するに伴い更に成長していくことを期待し祈ります。



汪 平 涛

現任事務局長。
2002年より理事に選任される。
O&E株式会社技術部長。工学博士。

人物

務実 架橋 貢献



韓 晶岩
現任副会長。北京大学
医学部教授。医学博士。

1999年加入科盟，2002-2005年任科盟秘书长。2004-2005“东京论坛”企画和运营的核心人物之一。

1989年赴日。1994年于日本帝京大学取得经济学博士学位。1997年创立龙高网络公司。以沈阳、大连和北京为中心同时经营数家中日合资公司。

寄语科盟：

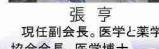
回顾同科盟一起走过的10年时光，我深深感到科盟是一个活跃快乐的团体、一个务实创新的团体、一个智慧奉献的团体，也是一个伟大的团体。科盟通过多彩的活动，使会员在异国他乡找到了归属感和保守僵化，同时证明并发挥了自我的力量，培养了自信，提高了社会适应能力。许多年轻的企业家借助科盟的平台在中日两国脱颖而出，走出了人生的辉煌。会员通过科盟的活动和工作实实在在地服务于日本社会，贡献于中日两国，同时感受着时代的变化和需求，在变化中更新自我，思考自己的价值，找到自己的位置。科盟在务实、架桥、贡献的大目标下聚集起数以万计的优秀人才，并将会员的个人命运与中日两国、社会和时代的命运联系在一起，不能不说科盟是一个伟大的团体。时势造英雄，而英雄又会影响下一个时代。时代造就科盟，科盟必将为中日两国的新时代作出更大贡献。

聯盟へのメッセージ：

聯盟は、活潑で楽しい仲間の集まりで、堅実ながらイノベーションに長け、奉仕精神に満ちる団体で、沢山の会員を連携させ、そして会員たちの運命を時代と中両国の運命に繋いだ偉大な団体であります。聯盟がその多彩な活動を通して会員たちに活力を与え、能力を發揮させ、自信を満たせました。沢山の若手企業家が聯盟という場のおかげで起業でき、中両国で素晴らしい実績を作り出しました。聯盟がこれからも輝く実績を残すに違いないでしょう。

1998年加入科盟，2008年3月就任副会长。科盟医学与药学会会长。
1982年内蒙古医学院毕业，1985年于黑龙江中医药大学获硕士学位。
1989年赴日。1992年起就学于昭和大学医学部，1998年获医学博士学位后就职于日本东邦大学医学部临床生理机能学部。2002年任日本健康科学中心研究员。2004年至今在日本理化研究所先端技术部门研究员。专业：药理学、分子生物学。

1998年に聯盟に入会。2008年3月より副会長。聯盟医薬学会会長。
理化学研究所Frontier研究員。医学博士。
1982年に内モンゴル医学院卒業。1985年に黒龍江中医药大学で修士号を取得。1989年米国・湘南鎌倉病院での研修を経て、1992年より昭和大学医学部に入学。1998年に同大で医学博士号取得後、日本東邦大学医学部臨床生理機能学部に就職。2002年に日本健康科学センター研究员、2004年から現職。専門：薬理学、分子生物学。



張 亭
現任副会長。医学と薬学
协会会长。医学博士

人物

寄语科盟：

1995年我在日本创业时中国的经济实力还不是十分强大，所以感觉在海外的中国人必须齐心协力共同努力，并因此加入了科盟。与老华侨相比，新华侨被普遍认为教育程度高，掌握高新专项技术，并头脑灵活。体现了新华侨这一特征的是科技人员。科盟的历任会长、理事和事务局的领导使科盟成为一个超出当初预想的大型团体。期待着科盟继续成长、成为在日华人的代表性团体。

科盟へのメッセージ：

1995年に日本で創業した頃には中国の経済力は今と比べて非常に弱かったで、やはり海外にいる中国人が力を合わせて頑張らうといけないと感じて、聯盟に参加しました。老华侨と比べて、新華侨はより良い教育を受けて、ハイテックを学んで、頭脳を使うとよく言われています。そのような新華侨の特徴としては、科学技術者であります。今までの会長、理事、事務局等は聯盟を予想以上に大きな団体に成長させました。次期理事会にもぜひ聯盟を更に発展させ、在日中国人を代表する団体としていただきたいと期待しております。

寄语科盟：

5年前作为科盟事务局秘书长参与科盟创办十周年庆典活动筹备时尚记亿犹新恍如昨日，科盟又迎来了15周岁生日。科学技术的发展离不开掌握科学技术的人才，因此科盟作为云集了众多科学技术人才的高层次团体，我始终坚信她能对日中间的科技交流发挥重大的作用。从今年起，科盟开始开展与中地区地方政府的脚踏实地的合作。衷冀科盟更充分发挥其实力，实现新的飞跃。

聯盟へのメッセージ：

5年前に聯盟創設10周年記念イベントの開催を手伝ったことがまだ記憶に新しいのに、聯盟が既に15歳の誕生日を迎えました。

科学技術の発展には科学技術を把握している人材が不可欠です。そのため、科盟がハイレベルの科学技術者の集団として、日中門の科学技術交流に奮闘の大役を果たせるこを強く信じています。今年から、科盟が中国地方政府との着実な提携を始めました。これからも聯盟がその表を充分に發揮し新しい飛躍を果たすよう心より期待しています。



徐 行健
現任副会長。聯盟中日投資
經營Salon会長。工学博士。
上海華豪電子有限公司董事
事總經理、日本尼キソフト株
式会社代表取締役社長。

楊 開浦

現任副会長。
株式会社Semi-Science
Japan代表取締役

寄语科盟：

感謝科盟使我结识了众多富有才华和成果、为人正直和善良的朋友。能够通过科盟的一系列活动为中日之间的学术、文化和社会交流尽自己的一份力，我感到非常欣慰和自豪。2005年从东京大学转到福冈工业大学后，依然作为材料学会副会长积极地参加着材料学会的活动并密切关注着科盟的发展。衷心祝愿科盟越来越壮大、为中日之间和在日本人之间交流做出更大的贡献。

聯盟へのメッセージ：

聯盟のお陰で、素晴らしい才能と実績の持ち主と出会い、善良で誠実な友人が出来ました。聯盟の活動を通して中日間の学術、文化と社会交流に微力を尽くすことが出来て嬉しいと思っています。2005年に東京大学から福岡工業大学に転職してからも、聯盟材料学会の副会长として同会の活動に積極的に関与していますし、聯盟の発展と成長に見守っています。聯盟がますます成長し、中日間の交流や在日中国人間の交流にもっと大きい貢献ができるよう期待しております。



劉 玉勁
現任副会長。2002-2005
年中日聯盟事務局長在任。
龍高ネット(株)代表取締
社長。經濟学博士。



朱 世傑
1998年より理事に選任され、
2004-2006年に副会長に在任。
福岡工業大学教授。工学博士

人物

務実 架橋 貢献



寄语科盟：

每当想起自己也曾参加过的科盟众多活动的场面，想到在风云际会中结识的各位朋友，我常常感慨万千。特别是当年医药协会的热血青年120多人共同执笔被誉为专业学术著作，推动与日本医药机构和学者之见及与中国国内专业领域的交流和协作等经历，至今还是可以与众多朋友共享的精神食粮。

勿庸讳言，科盟作为海外学人的义务服务社团，于至今的活动运营中时时要面对在时间、经费和成员间行动协调等诸多困难；今后团体活力与向心力的维持也需要不断确定新的切合实际的发展目标而能给新老成员们以激励和希望。在祖国形势与中日关系以及国际风云的时时变化之中，我们需要以各自的身手共同谱写新的篇章。衷心祝愿我们的科盟作为在日本华人联谊与交流的一面旗帜，永葆青春活力！

聯盟へのメッセージ：

1996年より理事に選任され、1999年2月~2002年1月副会長に在任。医業協会秘書長、会長を歴任。現任理事、聯盟医学博士

東京有明医療大学保健医療学科准教授、NPO法人日本健康科学会理事長

寄语科盟：

我曾经和IT分会的各位成员一起主导过10周年纪念大会及“东京论坛”等大型活动的现场运营。感谢大家利用工作之余来参加活动。每一项小小的工作都离不开大家的热情。非常希望今后有更多的年轻会员来参加活动和运营，年轻的力量会使得组织更加充满生机。

科盟是志愿者组织，工作需要有效的分工合作。IT分会会员掌握前端的网络技术和通讯手段，愿意发挥更大的作用使得联盟的工作更高效从而更愉快。

聯盟へのメッセージ：

在籍期間中はIT分会の皆様と一緒に、十周年記念大会や「東京論壇」など大型イベントの現場運営を主導しました。仕事一つづつは皆様の情熱があつたからで、心より感謝しています。今後はもっと多くの若手会員に活動と運営に参画してもらいたいと思います。若手の参加によって組織もますます活力が増していくと信じています。

聯盟はボランティア団体として、皆様は仕事をの間合に縫つてイベントの準備と運営をしたため、時間的に体力的に大変だった時期もあると思います。仕事の分担と異なる連携が必要だと感じています。これからもIT分会がお持ちの最先端ネット技術やコミュニケーションツールを生かして、聯盟の運営に更なる貢献をしてきたいと思います。



趙 中振
2002-2005年に聯盟副会長に在任。



劉景東
現任聯盟IT分會會長。
橫河電氣株式会社。工学博士。

1998-1999年任科盟副会长。1996-1999年任科盟医学与药学会首位会长并连任。2005东京论坛中的国际中医药学术大会的主要组织者之一。香港浸会大学中医药学院教授。医学博士。

寄语科盟：

“务实·架桥·贡献”——科盟精神永存、会员友谊长存。

1998-1999年任科盟事务局長、2002-2005年任科盟副会長に在任。1996年に聯盟医学と藥業協會第一任會長に就任し、1999年まで在任。2005東京論壇「第4回国際中医薬学術大会」の主要企画運営メンバー。

人物

務実 架橋 貢献

曹 東輝

科盟成立初期主要负责人之一。曾任科盟副会长、科盟机械技术者协会会长。

1987年12月于浙江大学取得工学博士后就职于中国国际信托投资公司(机械部)。同年12月作为上智大学客座研究员来日。1992年就职于日立建机株式会社。现任日立建机(中国)有限公司经营企画室长、研究中心专职部长。

聯盟設立初期の主要責任者の一人。聯盟副会長と聯盟機械技術者協会会长を歴任。

1987年に浙江大学にて工学博士学位取得後、中國国際信託投資公司（機械部）に就職。同年2月に上智大学客員研究員として来日。1992年に日立建機株式会社に就職。現在は日立建機（中国）有限公司経営企画室長、研究開発センター担当部長。



高 学明

科盟创始期筹备委员会主要成员之一。1993年至2001年任科盟秘书长，2002年至2005年任科盟副会长。科盟成立10周年纪念活动及2004年东京论坛的核心组织者之一。

1980年留学。1989年于日本东北大学取得工学博士学位，专业方向为数字信号处理。1991年2月在日本创立软件公司Mars，2001年11月设立日本SUC株式会社。2005年因个人原因退离科盟。



聯盟設立準備委員会のコア・メンバーの一人。1993年-2001年に聯盟事務局長、2002年-2005年は聯盟副会長に在任。聯盟設立10周年記念大会および2004東京論壇企画運営のコアメンバー。

1980年に留学で来日。1989年に日本東北大学にて工学博士学位を取得。専門はデジタル信号処理。1991年2月に日本でソフトウェア開発会社Marsを創立、2001年にSUC株式会社を設立。



↑2003年理事会一部理事 ↓



↑2005年理事会一部理事：
何新、徐行俊、辛赤邑、馬衛東、楊開滿、楊克儻、肖石琴、劉玉勤、王鋒溝、包赤軍、潘海蓉、韓晶岩、謝洪燕、福芝康祐、錢祝慈、汪平瀟。

設立十周年記念交流大会

2003年6月8日，在日中国科学技术者聯盟隆重举行成立十周年庆祝大会，中国驻日使馆领导、日本国会议员、日中友好团体代表等来宾及会员350人参加。

2003年6月8日、在日中国科学技术者聯盟が設立十周年記念交流大会を盛大に開催し、中国大使館や日本衆議院議員、日中友好団体等来賓及び会員350名以上が参加した。



部分参加者合影留念（一部参加者が記念撮影）



「大会签到场景／会場受付の様子」

←募捐抗击非典（SARS募金）



↑元会長各位。左1：初代会長任福雖博士、左3：二代目会長寿国梁博士、右2：三代目会長朱亞峰博士。



↑楊克倫会長与錢祝慧副秘書長在祝賀會上致謝詞。
楊克倫会長と錢祝慧副秘書長が祝賀会にて挨拶

設立十周年記念交流大会

众位来宾共同庆祝科盟成立10周年／来賓の皆さんと共に十周年を祝う



左←：中国大使館李東翔公使參事官、葉冬柏科學技術
參事官、張立國總領事。



←村山富士（日本前首
相）の女儿村山女士在
祝賀会上代读村山前
首相的贺词。



日本众议院议
员海江田万里
就日中关系做
演讲。→
日本衆議院議
員海江田万里
が村
山元首相から
の祝辞
を代読。→
日本衆議院議
員海江田万里
が村
山元首相から
の祝辞
を代読。→



↑財團法人 日中友好会館
村上立躬理事長



↑左：日本国際貿易促進協会片寄浩紀専務
↑右：華僑總会殷秋雄会長。



務実 架橋 貢献

設立十周年記念交流大会

氣氛热烈的大会会場／終始和やかな会場

大会利用国特网实时向全世界转播了实况。祝贺晚会上还推出了民族文艺节目。
大会は、インターネット経由で実時間に世界中に中継された。



←主会場↑

贈書現場（書籍プレゼント現場）



↑祝賀晚会会場主賓
祝賀パーティーの開場を待つ主賓たち



CCTVの宣伝角。↑
CCTV全面报道了科盟十周年的历程和本次纪念大会。
CCTVの宣伝コーナー。↑
CCTVは聯盟を紹介し、記念大会を大々的に報道した。



←祝賀晚会在民族音乐和
舞蹈中迎来高潮。↑

↑祝賀パーティーは民族音乐舞蹈の演出で最高に盛り上がっていた。↑
↑祝賀晚会主持人韩晶岩副会长和钱祝慧副秘书长。

祝賀パーティーの司会を務める韓晶岩副会长と
錢祝慧副秘书长。この後二人は司会の名コンビとなり、聯盟の一連の重要なイベントの司会を務めた。

務実 架橋 貢献

2004東京論壇

時間： 2004年6月6日、7日

場所： 東京国際交流館

主催： 在日中国科学技術者聯盟

共催： 中国駐日本大使館、中国科技部火炬中心、中国国务院僑办国外司、中国僑聯青年委員会、

遼寧省科技厅、中国欧美同学会、日本華僑華人連合總会、日本新華僑華人会

後援： 日本国際貿易促進協会、日中友好議員聯盟、（財）日中友好会館、（財）日中經濟協会、

（社）日中協会、中関村駐東京連絡所、日本中華總商會、全日本中国人博士協会、中国留日同学会

参加者：二日間合計300人次

中国国内代表団：計50名

北京、沈陽、大連、鞍山、盤錦、南京、無錫、新疆の開発区・招商委員会等

日本側参加者：在日中国起業家・就職者、日本企業の対中ビジネス担当者、日中友好团体等。

中国国内代表団：計50名

北京、沈陽、大連、鞍山、盤錦、南京、無錫、新疆の開発区・招商委員会等

日本側参加者：在日中国起業家・就職者、日本企業の対中ビジネス担当者、日中友好团体等。



↑↑ 第一天主会場／初日のメイン会場



↑ 第一天的分会场 / 初日の第二会場

VIP講演



李重翔公使参事官



程永華公使



于淑媛總領事



葉冬柏科技參事官



↑ 日本国際貿易促進会
片寄浩紀専務理事



商务角（商談コーナー）

2004東京論壇



↑ 傍晚懇親会の深入交流／夜の懇親会でさらにアピール／交流 ↑(新疆代表団和村上理事长)



↑ 傍晚懇親会の深入交流／夜の懇親会でさらにアピール／交流 ↑(新疆代表団和村上理事长)



↑ 第二天的主会場
↑ 二日目のメイン会場



↑ 在东京的会议结束后、主办方安排中国代表团成员分别访问了千叶市、川崎市和大阪市。上图为部分中国代表团成员访问千叶市。
↑ 大会後、中国代表团一部メンバーが千葉市を訪問したときの様子。



参会人员合影

参会者記念撮影

2005東京論壇

時間：2005年10月30日～31日

場所：川崎市産業振興会館

主催：在日中国科学技術者聯盟

共催：中国駐日本大使館、日本川崎市

後援：中国国务院貿易事務弁公室、日本神戸市、日本沖縄県Uruma市、川崎商工会議所、

財團法人川崎市産業振興財團、財團法人川崎国際交流協会、

協同組合日中Venture交流促進Center、北京中関村駐東京聯絡處、日本国際貿易促進協会、

社団法人日本中國友好協会、社団法人日中協会、日本新華僑華人会、日本中華總商会、

全日本中國人博士協会、日中經濟發展中心、全日本中國留學人員友好聯誼會

参加者（二日間合計約500人）：

中国側主要来賓：

王毅大使、于淑媛總領事、王翔坤瀋陽市副市長、國家中藥管理局李大寧副局长、國僑弁寧活義副司長、
陳鐵成遼寧省中小企業局副局長、本溪市趙長倫、王強副市長、等

中国側參加者（計300数名）：

遼寧省、沈陽市、本溪市等政府等投資誘致責任者、上海市、包頭市、本溪市等各地民間企業家

日本側主要来賓：

阿部孝夫川崎市長、鈴木真生川崎市副市長、植松了川崎市經濟局長、大崎秀文神戸市産業振興局參事官等

日本側參加者：

在日本留学生活・起業家・就職者、地方政府の中国事業担当者、企業の対中 business担当者、

日中友好团体代表と会員、等

VIP祝辞



2005東京論壇



↑日本警方负责的会场警戒
厳重警備された会場



↑楊克儉会長迎接王毅大使
楊克儉會長が王毅大使の到着を迎える



↑楊克儉会長致开会词
開会の辞:楊克儉会長



↑主会場。
最前列右～:李大寧局長、阿部孝夫
市長、王毅大使、楊克儉会長、國務
院華僑事務弁公室寧活義副司長。
↑主会場。
尽管是周日的早晨，还是有400多名
参加者赶到了会场。
日曜の朝にもかかわらず、400名余りの参
加者が駆けつけられた。



↑开幕式后，阿部孝夫川崎市长与王毅大使会
谈。

開会式の後、主催者のアレンジで、川崎市長阿部
孝夫氏と王毅大使との会談を行われました。



↑参加会谈的主要成员合影留念。(会談に出席した
主要メンバー) 右～:于淑婧總領事、楊克儉会長、
王毅大使、阿部孝夫市長、植松了經濟局長、錢祝慧
副會長、李光哲(全日本中国留学人員聯誼会会长)

2005東京論壇

大会回放（大会回顧）

記者招待會 18家中日媒體（記者会見）



↑楊克儉会長和錢祝慧副會長が記者質問に答える
↑楊克儉会長と錢祝慧副會長が記者質問に答える



↑川崎市長阿部孝夫（中）回答媒体提问
阿部孝夫川崎市長(中)がメディアからの質問に答える



↑记者招待会会場
記者会見の会場



↑中国代表団各位接受記者采访
中国代表団各位がマスコミ取材を受ける



↑左～：遼寧省中小企業局局長陳鐵城、
國務院華僑事務弁公室副司長寧活義



↑中国本溪市副市长王強（左）



↑安排中国各个地方政府代表团和川崎市
政府进行直接交流。

中国政府代表団と共催者の川崎市政府
との会談の場を持たせ、民間団体のアレ
ンジによって、両国地方政府間の直接の
横の交流が出来たのは初めてだという。



2005東京論壇

为两国地方政府举行公开讨论会(パネルディスカッション)

科盟举办“中日地方政府论坛”，探讨地方政府在中日交流中的作用与课题。
各位的基調講演を踏まえ、5名のパネリストとコーディネーターが「日中地方政府論壇」を展開し、
日中交流における地方政府の役割と課題について議論した。



↑6位发言人在台上主导讨论
并回答台下观众的提问。
6名のパネリストが壇上で
議論をリードし、参加者か
らの質問に答える。

↑左～：
本溪市副市長王強
川崎市副市長鈴木真生
瀋陽市副市長王翔坤

↑左～：
遼寧省中小企業局副局長陳鉄
城、財团法人川崎市産業振興財
團理事長原田誠司、聯盟副會
長錢祝慧



分科会：第4回国際中医薬学术大会

分会場：華僑華人企業家創業
経験談

分会場：沖縄Urumqi市「健康立市」
主題討論会



↑聯盟の老朋友の一人：福芝
康祐（右）。川崎市經濟局アジア
起業家支援事業推進室主幹。）

展示・商談角（展示・商談コーナー）

（株）味之素、（株）東芝、（株）花王等日本著名企业、冲绳市和川崎市的中小企业以及中国民营企业共16家公司参与了展出及商谈。

（株）味之素、（株）東芝、（株）花王等日本大手企业を始め、冲绳市と
川崎市の中小企业ならびに中国民間企业計16社が展示と商谈を参加した。

2005東京論壇

←第一天大会参加者合影留念。在主办方的精心企画和周到运营下，主会场和6个分会场同时进行，两天合计500余人参加了大会。主办方靠完全的义务活动成功举办如此大型和高水平的国际交流活动，得到中日两国各界人士的高度评价。

初日の参会者全員が記念撮影。主催者の素晴らしい企画と周到な運営のもと、主会場と6分科会を併せて7会場が同時に進行し、二日間で延べ500名が参加した。これほどの大型国際交流活動が完全ボランティアにより企画運営されたことは日本全国各界から絶賛された。

交流晩会（夜の交流パーティー）



←总领事于淑媛为第一
天的晚宴致祝酒词
←初日の夕食会で乾杯
の音頭を取る 丁淑媛
總領事



→
丰盛的晚宴
(川崎市のおかげで、
料理も豊富で美味しい)



↑第二天的交流晚餐会／二日目の懇親会↑



↑部分组委会成员（一部実行委員）
左～：福芝康祐、錢祝慧、段志輝、
蔡偉

務実 架橋 貢献

2005東京論壇

闭幕后的部分媒体报道（閉会後の一部マスコミ報道）



央视 科技新闻频道（中国）
(中央テレビ科技/ニュースチャンネル)

科技日报（中国）



新华社（中国）



神奈川新聞（日本）



中国侨报（中国）



神州学人（中国）



中文导报（日本）

★★★ 此外华人周报（日本），国际在线（网络）等媒体给予详细跟踪报道 ★★★
★★★このほかにも、華人週報（日本）、國際オンライン（ネットメディア）等にも大きく報道された★★★

務実 架橋 貢献

2006東京論壇

時間： 2006年12月9日

場所： 川崎市産業振興会館

主催： 在日中国科学技術者聯盟

共催： 中国駐日本大使館、日本川崎市国際交流協会、

後援： NPO法人アジア起業家村推進機構、広東智洋法律事務所、広東省信用研究会、
月刊「コロンブス」、中関村駐東京連絡處、中国对外应用技术交流促进会、
日本新華僑華人会、全日本中国留学人員友好聯誼会

参加者：

中国側：
中央、広東省、遼寧省等政府等中小企業管理機構責任者や、北京市、広州市等中小企業支援団体、
専門家、民間企業家等計10数名。

主要来賓：

国家工商总局研究センター主任 謝小英
国务院发展研究センター副部長 孟春
広東省中小企业发展促进会秘書長 謝泓、等

日本側：

中小企業経営者、地方政府の中小企業協力機構、日中友好団体代表と会員、等100名超。

主要来賓：

川崎市長 阿部孝夫
川崎市經濟局長 大谷悦夫
月刊「コロンブス」編集長 古川猛、等

VIP祝辞



主题讲演（基調講演）



2006東京論壇

中日中小企业发展论坛（中日中小企業發展論壇）



↑下午以“制造业中小企业的发展与国际化”为主要论点展开“中日中小企业论坛”。午后的“制造中小企业的发展与国际化”为主题上，进行了讨论。



↑左～：川崎市經濟局長大谷悦夫
広東省中小企業發展促進会秘書長謝涇
遼寧省中小企業局副局長陳欽城
月刊「コロンブス」編集長古川猛
聯盟副會長兼事務局長錢祝慧



←讨论会引起了到
场日本企业等的极
大兴趣。图为两位
日本参加者向发言
人提问。→



←热点的话题
只有一两个，
参加者们认真地
聆听并积极地提
出问题。→



↑理事辛赤邑主持问答。理事辛赤邑在回答问题。↑讨论会会场。（会場の皆さんの真剣な表情。）

2006東京論壇

2006' 東京論壇

主催：中日中小企業發展論壇
共催：中日友好交流協会、日本財團

←大会结束后
130余名与会
成员合影留念。

←130名余りの
参加者が記念
撮影



←韓晶岩副会长在恳亲会上介绍
国家工商总局研究中心谭小英女士
等各位宾客

←韓晶岩副会长在恳亲会上介绍
国家工商总局研究中心主任谭小
英女士等国内嘉宾



右1：川崎市經濟局長大谷悦夫



→
月刊「Columbus」編集長
古川猛（右）

←楊克俊会长と川崎市友人
中村和雄（左）、村上啓一
（右）が歓談



↓ 東京论坛的成功离不开组委会成员的贡献！／東京論壇の大成功は実行委員各位のお陰です！↓



左～：理事、呼格吉勒、辛赤邑、潘
海英、楊開濬、錢祝慧、楊克俊、韓
晶岩



左～：幹事の徐守宇、王鋒涛、周
慧、右1：張暉

2006東京論壇

入会前后的相关访问交流活动／入会前後の関連交流活動（一部）



↑ 广东省中小企业发展促进会谢泓秘书长与大仲馆
科技参赞阮湘平探讨促进中国中小企业发展方策。
广东省中小企业发展促进会秘书长谢泓氏が中国大
使館科学技術参事官阮湘平氏（右）と「第四回中
国国际中小企业博览会」について相談。



↑ 广东省代表团部分成员在科盟的牵线安排下访问
川崎市经济局长大谷锐大、邀请川崎市中小企业参
加翌年在广州举办的第四届中国国际中小企业博览
会。
広東省代表団が川崎市経済局を表敬訪問

大会后的部分媒体相关报道／大会後のマスコミ報道（一部）



↑月刊「Columbus」在其07年一月号上专题长篇报导了06东京论坛／特集報道（月刊「コロンブス」
07年1月号）

学術交流



1994年与中科院学术交流 1994年中国科学院と交流



1995年中日青年学者による国際学術シンポ
ジウム、計300人出席



参加第一届世界中西医结合大会与国际民族医药大会
(北京、1997) 的部分协会成员



1998年参加海外华人联络会议
1998年海外華僑連絡會議に出席



应台湾中国医药大学邀请。 1998年本会代表团赴宝岛
进行讲学和交流活动



台湾中国医药大学の招請で、1998年に台湾で学術
交流

学術交流



2000年材料学会研讨会

2000年材料学会シンポジューム



参加2000年国际传统医药大会

2000年の国際伝統医薬大会に出席



2001年与美国驻日商务参赞就亚洲经济危机交换意见

2001年米国投資動向報告会



参加2001年中药与天然药物国际研讨会

2001年漢方薬と天然薬物国際シンポジュームに出席



科盟代表团出席“第2届海外中医药同学会”

(纽约, 2001)

聯盟の代表团は「第2回海外漢方業同窓会」

(ニューヨーク, 2001)

学術交流



2003年科技交流会

2003年科学技術交流会



2004年科技交流会

2004年科学技術交流会



2005年主办第4届国际中医药学术大会

2005年第四回国際漢方医薬学学术大会を主催



2004年魯云理事(右)介绍材料学研究新成果

2004年魯雲理事(右)が材料学研究新成果を紹介



2006年王勤学理事学术演讲

2006年王勤学理事が学术講演



2005年MBA协会王晓冬会长(左)与北京浙江企业商会签署合作协议

2005年MBA协会王晓冬会长(左)が北京浙江企業商会と提携契約

帰国訪問

務実 架橋 貢献



組織参加科協年会（左上）
内蒙ゴル、天津、長春、珠海交
流訪問団（1995年）
浙江上海交流訪問団（2001年）
（下四枚）
中国科学協会の年会に参加
（左上）
内モンゴル、天津、長春、珠
海の訪問団（1995年）
浙江上海交流訪問団（2001
年）（下四枚）



帰国訪問

務実 架橋 貢献



以科盟を中心多次組織中关村訪問
訪問北京市中关村企業
有多家科盟成員公司在北京設立新公司



帰国訪問



1995年归国交流
1995年帰国訪問

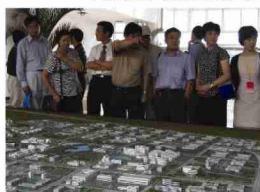


2000年归国交流
2000年帰国訪問

↑前排右3: 国侨办许又声副主任



海内外优秀学者支持黄河三角洲建设与发展活动



↑右2: 中国侨联经济科技部陈桦部长



2002年开发黄河三角洲智力洽谈活动
与中国侨联共同组织归国交流团，
访问四川北京（二排及三排左一左二）
2003年参加黑龙江交流会（三排右一）
2003年支援东北振兴访问团（下二）



2002 年黄河三角洲開發會議に出席し、
華僑の帰國交流團で四川北京を訪問(上、
中四枚)
2003 年黒龍江交流会に出席(右中)
2003 年の東北振興訪問團(下二枚)



左3 外交部领事司张立国副司长（原驻日总领事）

帰国訪問



2006年科盟杨克俭会长参加两会（左上）
2008年科盟代表团考察团在大连（右上）
2008年科盟代表团考察大连金州（右下）
2008年海南访问团（左中）



2006年聯盟の楊克儉会長が兩国會議に出席（左上）
2008年聯盟代表団が大連市を訪問（右上）
2008年聯盟代表団が大連金州を訪問（右下）
2008年の海南訪問團に参加（左中）



來訪接待

務実 架橋 貢献



來訪接待

務実 架橋 貢献



接見会見

務実 架橋 貢献



1999年江澤民主席訪日接見



1999年江澤民主席訪日



胡錦濤主席訪日接見

胡錦濤主席訪日



中国政治協商會議賈慶林主席訪日宴會
中国政治協商會議賈慶林主席訪日レセプション



賈慶林主席接見旅日僑團負責人代表並共進早餐
賈慶林主席が華僑団体代表を接見

会員大会

務実 架橋 貢献



1993年科盟成立大會



1993年聯盟設立大會

1996年度會員大會

1996年會員大會



1998年會員大會



1999年會員大會

1999年會員大會



1996年医药协会成立大會



1996年醫藥協會設立大會

1998、1999年医药协会年度大會

1998、1999年医藥協會會員大會



2002年度會員大會



99年度ACSEJ医業協会交流年会

会員大会

務実 架橋 貢献



2003年会員大会



2003年会員大会 2005年会員大会



2005年会員大会、程永華公使と楊克儉会长及钱祝慧副会长



2007年会員交流大会 2007年会員交流大会



2008年会員大会合影

2008年会員大会記念撮影

理事会

務実 架橋 貢献



1998年理事会部分成员
1998年理事会メンバー一部



2001年理事会部分成员
2001年理事会メンバー一部



1999年理事会部分成员
1999年理事会メンバー一部



2003年理事会部分成员
2003年理事会メンバー一部



2004年理事会部分成员
2004年理事会メンバー一部

交流活动

務実 架橋 貢献



山梨交流会

山梨懇親会



1994 年機械分会温泉旅行
1995 年机械分会温泉旅游



1994 年机械分会夏のキャンプ
1994 年機械分会夏のキャンプ



1996 年機械分会滑雪
1996 年機械分会スキー



2003 年长野滑雪

2003 年長野スキー合宿



2005 年交流活动

2005 年交流活動

交流活动

務実 架橋 貢献



1993年与留学生后援会交流 1993年留学生後援会との交流



1997年与徐教信大使交流 1997年徐教信大使と交流



2001 年庆祝北京申奥成功
2001年オリンピック説明成功的祝賀会



2006年与王毅大使交流 2006年王毅大使との交流



2007年科普交流会 2007年科学普及交流会



2008年许泽友总领事（后排正中）与刘敬师领事
(前排右一)会见日本新华侨团体负责人
2008年許澤友總領事、劉敬師領事と記念撮影

交流活动

務実 架橋 貢献

科盟队，左起贺乃和，马骥，周慧，张亨，
杨克俊，钱祝慧
聯盟チーム

国士无双队，左二王晓冬理事
国士无双チーム

北工大队
北京工业大学チーム

2008年在中野体育馆举行的“土木杯”排球赛
2008年中野体育馆で開催される“土木杯”
バレーボール大会

浪人队
浪人チーム

2008年在富士通体育馆举行的乒乓球比赛
2008 年富士通体育馆で開催される卓球大会

57

交流活动

芦振2008年5月长野的奥林匹克圣火传递，右一为带队参加活动的赵绍君理事
2008年5月にオリンピック聖火リレーの応援活動

2008年科盟杨克俊会长作为在日华侨华人代表出席北京奥运闭幕式
2008年楊克俊が在日華僑華人の代表として北京オリンピック閉幕式に出席

2008年，科盟理事会干事林洁（右）及科盟理事会秘书魏然（左）主持四川地震募捐活动
2008年の四川大地震の募金活動

钱祝慧和张亮代表科盟参加中国举办海外智力回国服务计划活动及2008相约上海共谋发展活动
錢祝慧が中国科協活動と上海市政府活動に参加

58

南京合作

務実 架橋 貢献



南京市人事局与科盟合作，左为南京市人事局严良副局长
南京市人事局与提携関係を結ぶ



2007年在南京市与外国专家局缔结合作协议
左二南京市外国专家局吴瑕局长



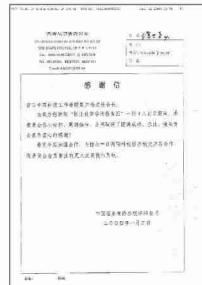
南京市人民政府访日团交流会合影，前排左三为大使馆
教育处程普选领事
南京市人民政府访日交流团



59

鸿雁往来

務実 架橋 貢献



SARS、四川大地震に対する聯盟の対応への礼状



中国科学技术协会「海智计划」との提携協議書

苏州市人事局との提携協議書

60

出版物

務実 架橋 貢献



科技交流刊物发行 技術誌刊行



「在日中国科学技术者聯盟会報」創刊發行

「在日中国科学技術者連盟会報」創刊發行

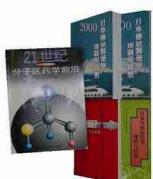


中日相关法律书籍
中日法律関連書籍

各种交流活动纪念品
中日交流記念品



出版医学专著
医学書籍出版



設立経緯

務実 架橋 貢献

「在日中国科学技術者聯盟」成立経緯

1992年4月25日在北京召开了“中国科协首届青年学术年会”。在29名海外代表中有9位来自日本。与会者深感留日学者应组织起来加强交流，接受科协国际部的建议，朱亚峰、任福维返回日本后开始进行筹备，就成立的必要性、宗旨等进行了多次讨论。1992年6月28日，任福维、朱亚峰、再帕尔·阿不力孜、范莉馨、田德等在川崎市正式召开了第一次筹备会。主要议题为会名、宗旨、章程等。同年7月26日，8月21日，10月7日，11月16日分别在川崎市召开筹备会，继续对上述问题进行讨论。至此，章程初稿基本完成。10月7号会议以后，田德因离开日本退出筹备工作。1992年12月23日，在筑波市再次召开了筹备会讨论决定成立筹备委员会及其他事项。1993年1月22日，星期五，农历大年三十，在中国大使馆教育处筹备委员会正式成立，出席会场的各地代表有：任福维、朱亚峰、再帕尔·阿不力孜、范莉馨、邓亚光、毛振奇、吕恒正、高学明、蔡榕、陈文有、陈静、崔保国。因故缺席的有：魏杰、寿国梁。列席会议的有：大使馆程文新、候光明、高斌、石维仁、秦正美、张文友先生以及“留学生新闻”赵海成编辑长等。会议讨论了章程草案，决定会名为“在日中国科学技術者聯盟”。

1993年2月11日、27日在东京相继召开了筹备委员会全体会议。在2月11日的会议上，通过无记名投票方式选举产生了17名理事、7名常务理事，并选举任福维为委员长，朱亚峰、再帕尔·阿不力孜、魏杰为副委员长。后来其鲁、赛力克·马高维亚、金铁成、张辉也被增选为筹备委员会委员。筹备委员会18名委员既有分工，又进行合作。筹备过程也充分体现了本联盟的宗旨，就是：“務実、架橋、貢献”。利盟的筹备工作得到了中国驻日本大使馆及使馆教育处、科技处、国家教委、科技部、中国科协、中国科学院、北京市对外科技交流协会、上海市科协、中国留学人员活动站、东京华侨总会等中方机构、社团法人日本协会、日中友好协会、日中友好议员联盟、财团法人日中友好会馆、中国留学生后援协会等日方机构，以及著名人士、友好人士等各界大力支持。

1993年4月，与中日两国有关团体联络完毕，成立大会的准备工作基本告一段落。4月11日在东京新宿御苑宾馆召开了筹备委员会全体会议，决定5月15日在东京新宿御苑公园举行了“黄晶周御见花游園工作会议”，检查了成立大会准备情况。1993年5月15日在东京日中友好会馆召开大会，“在日中国科学技術者聯盟”正式成立。

“在日中国科学技術者聯盟”首届运营委员会名单：理事：任福维、朱亚峰、再帕尔·阿不力孜、范莉馨、邓亚光、魏杰、毛振奇、寿国梁、高学明、吕恒正、崔保国、蔡榕、陈静、陈文有、金铁成、其鲁常务副理事：任福维、朱亚峰、再帕尔·阿不力孜、范莉馨、邓亚光、魏杰、毛振奇
会长：任福维 副会长：朱亚峰、再帕尔·阿不力孜、魏杰
学术部长：邓亚光 副部长：金铁成、张辉
事务部长：范莉馨 副部长：陈静、蔡榕
联络部长：寿国梁 副部长：赛力克·马高维亚、其鲁
编辑部长：毛振奇 副部长：崔保国
咨询部长：高学明 副部长：陈文有、吕恒正

「在日中国科学技術者聯盟」設立経緯

1992年4月25日に「中国科学技術協会第一回青年学术年会」が北京で開催された。海外からの代表が計29名で、うち9名が日本から参加していた。日本からの参加者は日本に留学している華人の間の交流を強化していく必要性を感じ、朱亞峰・任福維が中國科学技術協会國際部の提案を受け、日本に帰った後、聯盟を設立する必要性と趣旨について数回討論した。1992年6月28日に任福維、朱亞峰、再パル・ア不力孜、范莉馨、田徳等が川崎市で一回目の準備会議を開いた。主な議題は会名、趣旨、規約であった。その時点で、規約の原案はほぼ完成した。10月7日の会議以降、田徳は日本に離れたから準備委員会を脱退した。1992年12月23日に筑波市で再び準備会議を開き準備委員会の設立およびその他の事項が決定された。1993年1月22日、高麗日、旧正月の日。この日に中国の在日大使館教育處にて準備委員会が公式に設立された。会議に参加した代表は任福維、朱亞峰、再パル・ア不力孜、范莉馨、鄧亞光、毛振奇、呂恒正、高学明、蔡榕、陳文有、陳靜、崔保國であった。大使館の程文新、候光明、高斌、石維仁、秦正美、張文友および「留学生新聞」の趙海成編集長らが会議に列席した。会議では規約の草案について議論され、会名が「在日中国科学技術者聯盟」に決定された。

1993年2月11日～27日に準備委員会全体会議は二回に分けて東京で開催された。2月11日の会議では、無記名投票の方式で17名の理事、7名の常務理事を選出し、任福維が委員長に選出された。朱亞峰、再パル・ア不力孜、魏傑が副委員長に選出された。後で其魯、賽力克・馬高維亞、金鐵成、張輝も準備委員会の委員として選出された。委員会の18名委員はそれぞれ仕事の分担があり、必要に応じて協力し合っていた。準備する過程においても、「務実、架橋、貢献」という聯盟の趣旨が貫かれていた。また準備にあたって、中国の在日大使館および教育處、科技處、國家教委、科技部、中国科學技術協会、中国科学院、北京市对外科学技術交流协会、上海市科协、中国留学人员活动站、东京华侨总会等中方机构、社团法人日本协会、日中友好协会、日中友好议员联盟、财团法人日中友好会馆、中国留学生后援协会等日方机构、以及著名人士、友好人士等各界大力支持。

1993年4月に中國側と日本側の関連団体への連絡が終わり、聯盟を設立する準備作業はほぼ完了した。4月11日に東京の後楽寮で準備委員会全体会議が開かれ、5月15日に日中友好会館で聯盟設立大会を開催することが決定された。また、5月5日に東京の新宿御苑公園で「ゴールデンウイーク御苑花見遊園業務会議」が開かれ、準備作業の進捗状況について確認された。1993年5月15日に東京の日中友好会館で設立大会が開催され、「在日中国科学技術者聯盟」が正式に設立された。

(以上据科联会报第一期资料整理译译而成)

历届理事会名单

務実 架橋 貢獻

聯盟各期理事会名簿 (1993-2002)

- (1993) 第一届理事会 (会長: 任福繼)
任福繼、朱亞峰、冉帕爾·阿不力孜、范莉馨、鄧亞光、魏杰、毛振奇、壽國梁、高學明、呂恒正、崔保國、蔡榕、陳鈞、陳文有、金鉄成、其魯、賽力克·馬高維亞、張輝
- (1994) 第二届理事会 (会長: 任福繼)
任福繼、冉帕爾·阿不力孜、其魯、高學明、崔保國、朱亞峰、壽國梁、黃銳、曹東輝、余努、張中、毛振奇、范莉馨、張輝、賽力克·馬高維亞
- (1995) 第三届理事会 (会長: 任福繼)
任福繼、其魯、張中、朱亞峰、壽國梁、陳錚、余努、曹東輝、高學明、黃銳、張輝、柯堅、陳劍波、李海鷗、杜明遠、夏宇和、辛赤邑、王春華、賀衛東、廖捷凡、呂恒正、田文懷、赦欣欣
- (1996) 第四届理事会 (会長: 壽國梁)
壽國梁、曹東輝、高學明、其魯、余努、張輝、張中、朱亞峰、陳鈞、黃銳、陳劍波、陳偉、杜明遠、赦欣欣、賀衛東、柯堅、李海鷗、廖捷凡、辛赤邑、王春華、王安生、易幼文、張傑、查倫美 (監事)、錢祝慧 (監事)
- (1997) 第五届理事会 (会長: 壽國梁)
壽國梁、曹東輝、張中、趙中振、朱亞峰、高學明、柯堅、張輝、陳劍波、陳軍、陳偉、陳崑、杜明遠、賀衛東、李海鷗、辛赤邑、王春華、易幼文、張傑、陳乃宏、倪健偉、戴昭宇、查倫美 (監事)、錢祝慧 (監事)
- (1998) 第六届理事会 (会長: 朱亞峰)
朱亞峰、壽國梁、曹東輝、趙中振、高學明、柯堅、王春華、張輝、陳軍、陳乃宏、陳偉、戴昭宇、杜明遠、賀衛東、紀曉惠、李海鷗、辛赤邑、徐明、顏瑾、楊克儉、楊金字、張傑、張中、趙輝、查倫美 (監事)、錢祝慧 (監事)
- (1999) 第七届理事会 (会長: 朱亞峰)
朱亞峰、壽國梁、曹東輝、趙中振、高學明、柯堅、王春華、張輝、陳軍、陳乃宏、陳偉、戴昭宇、杜明遠、賀衛東、紀曉惠、李海鷗、李建華、劉克辛、辛赤邑、許文海、楊克儉、楊金字、張傑、張中、趙輝、查倫美 (監事)、錢祝慧 (監事)
- (2000) 第八届理事会 (会長: 張中)
張中、朱亞峰、趙輝、劉克辛、劉興軍、李建華、李海鷗、李傑、楊克儉、楊金字、杜明遠、陳乃宏、陳軍、張詒良、戴昭宇、曹東輝、錢祝慧、壽國梁、查倫美、高學明、紀曉惠、賀衛東、王春華、王曉、黃光偉、夏寶森、周益春、辛平、楊維興
- (2001) 第九届理事会 (会長: 壽國梁)
曹東輝、陳軍、戴昭宇、高學明、紀曉惠、錢祝慧、壽國梁、辛平、楊金字、楊維興、張中、趙輝、趙中振、朱亞峰、劉小平、王曉、杜明遠、李建華、張詒良、韓晶岩、劉克辛、李小康、夏寶森、劉興軍、周益春、楊克儉、石敏俊 (監事)、吳堅 (監事)、朱世傑
- (2002) 第十届理事会 (会長: 辛平)
辛平、戴昭宇、劉興軍、楊克儉、高學明、王興剛、劉玉勤、曹東輝、戴昭宇、杜明遠、高學明、韓晶岩、李建華、李小康、劉克辛、劉興軍、劉玉勤、潘海蓉、錢祝慧、石敏俊、王勤學、王曉、王興剛、王昆、夏寶森、辛平、楊金字、楊克儉、張護平、趙輝、朱世傑
朱亞峰 (特別顧問)、壽國梁 (特別顧問)

历届理事会名单

務實 架橋 貢獻

聯盟各期理事会名簿 (2003-2007)

- (2003) 第十一届理事会 (会長: 楊克儉)
副會長：辛平、曹東輝、高學明、韓晶岩、石敏俊
秘書長：劉玉勤
副秘書長：楊開滿、錢祝慧、汪平清、
理事：戴昭宇、李建華、李頤、李小康、劉克辛、劉興軍、寧亞東、王兵、王勤學、王曉、王興剛、王昆、溫留漢、黑沙、夏寶森、辛赤邑、楊金字、趙輝、趙岩、朱世杰、朱亞峰
監事：馬衛東、潘海蓉
- (2004) 第十二届理事会 (会長: 楊克儉)
副會長：曹東輝、高學明、韓晶岩、朱世杰、錢祝慧
秘書長：劉玉勤
副秘書長：楊開滿、汪平清、寧亞東
理事：包赤軍、陳乃宏、戴昭宇、福米昇、何新、李劍銘、劉克辛、劉景東、魯云、馬衛東、潘海蓉、石敏俊、王兵、王昆、王勤學、王曉、王耀輝、溫留漢、黑沙、肖石琴、辛赤邑、辛平、徐行儉、薛兵、張亨、張輝、張紹良、張靜一、趙紹君、趙岩、朱亞峰
監事：謝洪燕、周哲敏
- (2005) 第十三届理事会 (会長: 楊克儉)
會長：楊克儉
副會長：曹東輝、高學明、韓晶岩、朱世杰、錢祝慧
秘書長：劉玉勤
副秘書長：楊開滿、汪平清、寧亞東
理事：包赤軍、陳乃宏、戴昭宇、何新、呼格吉勒、李劍銘、李鷗、梁乃申、劉克辛、劉景東、魯云、羅延道、馬衛東、孟歌辛、潘海蓉、石敏俊、王兵、王勤學、王曉、王曉冬、王昆、溫留漢、黑沙、肖石琴、辛赤邑、辛平、徐大軍、徐行儉、薛兵、張亨、張輝、張紹良、張靜一、趙紹君、趙岩、朱亞峰
監事：謝洪燕、周哲敏
幹事：王峰濤、徐守宇、林林、郭蘿琛、米國民、宮毅
- (2006-2007) 第十四届理事会 (会長: 楊克儉)
副會長：韓晶岩、錢祝慧、劉玉勤、徐行儉
秘書長：錢祝慧 (兼)
副秘書長：楊開滿、寧亞東
理事：包赤軍、戴昭宇、段志輝、何新、呼格吉勒、李鷗、劉景東、魯云、羅延道、馬衛東、潘海蓉、汪平清、王鋒湧、王勤學、王曉、王曉冬、王昆、溫留漢、黑沙、肖石琴、辛赤邑、辛平、徐守宇、殷福星、張亨、張輝、張亮、張紹良、張靜一、趙紹君、周慧、周哲敏、朱世傑
中國國內部理事：曹東輝、王耀輝、謝洪燕
監事：王平
幹事：林潔、張暉、林林、郭蘿琛

科盟章程

務実 架橋 貢献

在日中国科学技術者聯盟章程（定款）

1993年5月15日		制定	
1994年12月8日	第一次修正	2000年11月12日	第四次修正
1997年12月7日	第二次修正	2003年1月11日	第五次修正
1999年12月5日	第三次修正	2003年12月6日	第六次修正

（注：在日中国科学技術者聯盟の定款は中国語のみで制定されるため、日本語版は参考訳であり、中国語版と相違がある場合、中国語版に準ずる。）

第1章 总則

（名称）

第1条 本会の中文名称は在日中国科学技術者聯盟（简称「科盟」）。

本会の日本名称は在日中国科学技術者聯盟（简称「聯盟」）。

本会の英文名は「The Association of Chinese Scientists and Engineers in Japan」（简称「ACSEJ」）。

（事務所）

第2条 本会的主要事務所在日本东京。

（宗旨）

第3条 本会以促进和加强会员之间、会员与中国和日本及其它国家的有关团体及科技工作者之间的合作和交流为目的，以「务实」、「架桥」、「贡献」为宗旨。

（活動）

第4条 本会为了实现上述宗旨，可以进行下列活动：

- (1) 举办各种学术会议及交流活动；
- (2) 出版发行本会会刊或其它刊物，包括电子刊物；
- (3) 与日本、中国及其它国家的有关团体等进行交流与合作；
- (4) 本会认为有必要的其它活动。

第3章 会員

（会員の種類）

第5条

本会の会員は、正会員、協賛会員、名誉会員とする。

（会員資格）

第6条 本会の各会員須満足下列条件

- (1) 正会員 習同本会宗旨而加入本会的下列个人：
 - a) 在日华侨华人科学技術工作者（包括社会科学工作者。以下同。）
 - b) 中国来日的留学人員及其他科学技術工作者。
- (2) 賛助会員 交納賛助会費的个人或法人。賛助会員資格為一年。
- (3) 名譽会員 为本会の事業做出了显著貢献，經理事会推荐的个人。

第1章 総則

（名称）

第7条 本会の中文名称は「在日中国科学技術者聯盟」（简称「科盟」）。

本会の日本名称は「在日中国科学技術者聯盟」（简称「聯盟」）。

本会の英文名は「The Association of Chinese Scientists and Engineers in Japan」（简称「ACSEJ」）。

（宗旨）

第8条 本会は会員と会員の間、会員と中国、日本、その他他の国との関連団体および科学技術者との間の提携と交流を促進することを目的とし、「務實」、「架橋」、「貢献」を宗旨とする。

（活動）

- 第9条 本会は前条の目的を達成するため、次に掲げる活動を行なうことができる：
- (1) 各種学術会議および交流イベントの開催；
 - (2) 本会の会報、電子出版物を含む各種出版物の出版発行；
 - (3) 日本、中国及び他の国の関連団体との交流と提携；
 - (4) その他本会が必要と判断される活動。

第3章 会員

（会員の種類）

第5条

本会の会員は、正会員、協賛会員、名誉会員とする。

（会員資格）

第6条 本会の各会員須満足下列条件

- (1) 正会員 本会の宗旨を賛同し入会した以下の個人：
 - a) 在日華僑華人科学技術者（社会科学者を含む。以下同じ。）
 - b) 中国から来日した留学人員およびその他科学技術者。
- (2) 協賛会員 本会を賛助する団体もしくは個人。
- (3) 名譽会員 本会の活動に著しく貢献し、理事会より推薦された者。

科盟章程

務実 架橋 貢献

（入会手続）

第7条 正会員として入会する者は、本会或いはいずれかの分会の理事会に入会申込をしなければならない。

2 協賛会員および名誉会員の入会は、2名以上の理事が推薦のうえ理事会の承認を得なければならない。

（入会費及び年会費）

第8条 本会は入会金及び年会費を徴収しない。

2 協賛会員の入会費は1口以上とし1口を2万円とする。

（会員資格の喪失）

第9条 会員が満足下列条件之一時、将喪失会員資格。

（1）本人提出退会申請時

（2）本人死亡或団体会員の団体本身消亡時

（3）被除名時

（退会）

第10条 会員は向本会理事会或分会理事会提出申請、可自由退会。

（除名）

第11条 有下例行為之一の会員、經過理事会討論決定予以除名。

（1）違反本章程

（2）有损害本会名誉或违反本会宗旨的行为

（不退还已支付出的物品和资金）

第12条 对退会和除名者不退还已经纳入的入会手续费、会费及其他已支付出的物品和资金。

第4章 組織構成

（类别和定员）

第13条 本会設置理事会如下。

（1）理事7人以上

（2）監事1人以上

2 本会設会長一名、副会長若干名。

3 本会設秘書處、秘書處設秘書長一名。

（選任等）

第14条 理事及び監事は各分会より推薦される者から選任される。各分会は現理事会決定。

2 理事和監事不得互相兼任。

3 各届理事会由新推荐的理事和监事构成、并经会员大会承认后成立。各届理事会的任期为2年。

但如果有合理的理由，分会有权在理事会任期内

撤换或变更其推荐的人选。

4 会長由理事会选举产生。会長的任期为2年，可以连任。

5 各届理事会任期内发生的人数和成员的变更以

及会長的选任和變更必須及时向会员报告。

6 理事会任期中超过1 / 3 的理事会成员更换时，根据会员要求，可以召开临时会员大会重新

承认理事会，但该被重新承认的理事会的任期为

该届理事会的卸任期。

7 会長經理事会同意，可根据需要设置常务副會長和 / 或副秘書長。

8 副會長、常务副會長、秘書長、副秘書長由會長

从理事中指定或更換，提交理事会通过后生效，

并及时向会员报告。

科盟章程

務実 架橋 貢献

(职责)

第15条 会長は本会の代表、负责本会運営。

2 副会長协助会長の工作、在会長不在時、根据会長事先指定の順序、代理其职务。

3 理事助助会長和副会長的工作、根据本章程及理事会的决议参与运营。

4 监事的职责如下：

(1) 监督理事会的工作情况。

(2) 监察本会的财务状况。

(3) 对理事会工作和本会的财务，向理事会提出意见或要求召开理事会。

(任期等)

第16条 理事会成员任期为2年，可以连任。

2 因缺额补欠、更换或增员而就任的理事会成员的任期为前任者或现任者任期的残存期间。

3 理事会成员在任期内可以向理事会提出书面辞职后辞职。

(缺额补欠)

第17条 当理事或监事缺额超过定员的3分之1时必须立即进行缺额补欠。

(解职)

第18条 理事会成员若出现如下情况之一时，可根据理事会的议决将其解职。

(1) 由于身心的原困无法继续工作之时。

(2) 有违反职则的行为或有其他不符合理事成员身份的行。

第5章 会员大会

(招集)

第19条 会员大会由会長根据理事会决议招集。

(職能)

第20条 会员大会将对以下事项进行审议或表决。

(1) 章程的修改

(2) 解散

(3) 合并

(4) 新年度活动计划

(5) 当年度活动报告

(6) 财务报告

(7) 理事会的成立或改组

(8) 其他由理事会提交会员大会审议决定的事项

(召开)

第21条 例行会员大会每年召开1次。

2 遇到下列情况时召开临时会员大会。

(1) 理事会成员的1/3以上认为有必要召开会员大会时。

(2) 总数的5分之1以上的正会员提出记载有审议事项的书面申请时。

(审议和表决)

第22条 会员大会对审议事项进行表决时，要有正会员出席者的过半数通过。

科盟章程

務実 架橋 貢献

(組成)

第23条 理事会由理事和监事组成。

2 理事会会议由会長召集并主持。

3 除表决权以外监事拥有和理事同等的权利和义务。

(職能)

第24条 理事会决定下列事项。

(1) 应该在会员大会中审议决定事项的草案

(2) 有关如何具体执行会员大会决定事宜的事项

(3) 会長的连任和罢免。

(4) 会長指定人事的承认

(5) 分会推荐理事会成员的人数

(6) 分会的设立或解散

(7) 其他有关本会运营的重要事项中不须经会员大会审议决定的事项

(召开)

第25条 在遇到下列情况之一时，須召開理事会。

(1) 会長认为必要的时候

(2) 理事会数5分之1以上的理事提出记载有审议事项的书面申请时

(3) 监事提出开会要求时

(审议和表决)

第26条 欲在理事会审议和表决的事项必须在开会前一周书面通知。

2 理事会会议由会長或会長指定的理事主持。理事会对审议事项进行表决时，要有出席者的过半数通过，贊否票数相等时，由主持人裁决。

3 在不妨碍理事会行使权利的前提下，可以用网络或其他方式举行理事会会议并进行表决。

(表决权等)

第27条 各理事的表决权平等。

2 因特殊情况不能出席理事会的理事，可以针对会议通知的审议事项，以书面的形式参加表决，或委托其他理事代代理人参加表决。

3 根据前项規定参加表决的理事视为出席了理事会。

4 与理事会会议的审议事项有特別利害关系的理事会成员，应回避该事项的表决。

第7章 財会

(財会)

第28条 本会的秘书处负责财会工作。

(经费来源)

第29条 本会的主要经费来源是：

(1) 本会举办各种活动所得的收入；

(2) 团体、企业以及个人的赞助。

第8章 杂則

(細則)

第30条 理事会可制定本章程的实施细则（如理事会运营和选举细则，财务管理细则等）。

(組成)

第23条 理事会由、理事と監事により構成される。2 理事会議は会長が招集し、議長を務める。

3 監事は、議決権を持たないほか、理事と同等の権利と義務を有する。

(職能)

第24条 理事会は、次の事項を決議する。

(1) 会員総会に付議すべき事項の提案

(2) 会員総会により議決された事項の執行に関する事項

(3) 会長の選任と免職

(4) 会長指定人事の承認

(5) 分会が推薦する理事候補の権利

(6) 分会の設立成りは解散

(7) 本会運営に關する重要な事項で、会員総会の決議を要しない事項

(開催)

第25条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

(1) 会長が必要と認めたとき。

(2) 理事会総数の五分の一以上から付議事項を記載した書面もって招集の請求があったとき。

(3) 監事から招集の請求があったとき。

(議決)

第26条 理事会に付議する事項は、理事会開催の一週間前までに書面にて通知されなければならない。

2 理事会は、会長成りは会長が指定了した理事が議長を務める。付議事項は、出席した理事の過半数をもつて採決するものとし、可否同数のときは、議長が最終決定権を持つ。

3 理事会は、バの権利行使を妨げないことを前提に、インターネット成りはその他の方法により理事会会議の開催と議事採決ができるものとする。

(議決権等)

第27条 各理事の議決権は、平等なるものとする。

2 むを認めない事由により理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された付議事項に關して書面をもって議決権を行使することができる。

3 前項の規定により議決権を行使した理事は、理事会に出席したとみなされる。

4 理事会議の付議事項について特別の利害関係を有する理事は、当該事項に對し議決権を行使してはならない。

第7章 財務会計

(財務会)

第28条 本会の事務局は財務管理を担当する。

(経費)

第29条 本会の経費は主に以下から得る：

(1) 本会が主催した各種イベントによる収入；

(2) 団体、企業及び個人による協賛。

第8章 章則

(細則)

第30条 理事会は本定款の実施細則（例：理事会運営と選舉規則、財務管理規則、等。）を制定することができる。

編集後記

编辑后记

在日本科学技术者聯盟常务副会长
纪念冊主编 錢祝慧

錢祝慧

作为日本首家中国人的科技工作者团体，科盟成立后一步一个脚印地发展起来。今天，科盟借十五周年契机回首自己的成长历程，审视飞速变化的周边环境，以期重新校准今后的前进方向和目标。于是，在几个月的回顧与沉思中，这本厚厚的纪念册诞生了。

在编辑过程中，我面对着一幅幅当年的照片，就像在阅读一部充实的成长日记。通过亲手把一篇篇日记缀成一个个篇章，深切地感受到了科盟在它15年的成长历程中，吸引和凝聚了无数的仁人志士，他们不断地支持和帮助着科盟，与科盟同喜同忧，同时又借助科盟为他们提供了舞台，实现了自己的梦想。十五年，对于富足的财团或基金会的发展来说可能是不值一提的瞬间。但是对没有专项资金也没有一个专业人员的非营利团体，科盟十五年的存续和发展绝对不是一个简单的过程。而就是这样一个从零开始的社团，科盟在十五年来始终坚持稳健运营，而且能够不断扩大活动规模，增强在中日两国的影响，这完全是科盟的成员们在“务实、架桥、贡献”的理念的感召下，经历了各种艰辛，克服了无数难题所创造出的成果。为此我由衷地感到科盟前人们的伟大。在此要向他们表达发自内心的敬佩和感谢。科盟作为非营利团体，今后也将不可避免地面对资金不足和人员不足的问题，但我相信科盟今后也能够通过借势相关方力量的良性机制切实解决这一课题，实现更大步伐的持续发展。

另外，从纪念册中收藏的数百张照片及无数的贺词和寄语中也可以感受到，科盟已经成为一个不仅在日本社会引人瞩目，而且在中国国内也颇具影响力的大规模民间团体；而更值得一提的是，科盟通过开展各种各样的活动吸引和凝聚的中日两国各界的尖端人才和精英挚友以及15年在中日两国建立的深广人脉是科盟拥有的最大财富。这些人才和挚友不仅仅是科盟至今积累起来的最宝贵资源，更将成为科盟持续发展的最大优势。我期待着今后科盟能在保持其高品位的同时，最大限度地运用资源，发挥作用，在中日两国特别是在日本主流社会展示其不可替代的作用。

最后，借让我在此对纪念册的编组委员和协助收集整理资料的各位表示深深的感谢。没有他们几个月来放弃自己的余暇埋头于编组工作，科盟的成长日志也不会这样充实和浓厚。这本纪念册承载了全体会员对科盟过去的美好回忆和对未来的厚重嘱托，是连接科盟的过去与未来的重要篇章。



務実 架橋 貢獻

后書き

在日本科学技术者聯盟常务副会长
本誌編集長 錢祝慧

錢祝慧

聯盟が日本で設立された初の中国人科学技術者の非営利団体として、設立以来、止まることなく走り続けてきました。その聯盟が、設立15周年という節目に、一瞬だけ足を止めて、これまでの軌跡を振り返り、自分を見詮めなおすことにしました。その結果がこの一冊の記念誌です。

今回、編集委員として聯盟の生い立ちを記念誌に綴ることによって、私は、聯盟がこれまでにたくさんの方に支えられ、助けられ、喜ばれ、感謝されてきたことを改めて感じられ、これまで奉仕してきた先輩の方々をますます偉大に思い、心から敬服し感謝しております—資金ゼロで有給スタッフもゼロの非営利団体にとっては、15年間は長くはないが決して短くもない厳しい歳月でした。その15年間の運営がスムーズに維持され、かつ開催イベントの規模や影響度が年々大きくなっているのは、本当に運営メンバーたちが信念一つで苦労を耐え続けて、難題を克服してきたおかげなのですから。ボランティアは報酬を得ていないからこそ、自らの貢献から満足を得なければならないので、聯盟は、非営利団体としてこれからも資金や人手の問題に直面する場面が多いでしょうが、今後も引き続き関係者の助力を借りながら、会員に自己実現の機会と舞台を与えることで無私にご奉仕くださる方に報いたいと思っております。

また、誌中の数百枚の写真が記録し、数々の賀状やお祝いのメッセージからも伺えるように、聯盟が母国中国で一目置かれる存在となつておらず、在日華人社会においても多大な影響力を持つようになつたのは、そのさまざまな活動を通して出会つた日中両国の素晴らしい友人たちこそが聯盟が擁する眞の宝物です。これら関係者や友人たちは聯盟の貢献者であると共に、聯盟の何よりも強みでもありますので、これからは、聯盟の品格を維持しながら、その資源と強みを最大限に活かして、日中両国、特に日本社会に対する発信力をさらに向こしめよう努めていきたいと思っております。

最後に、この場を借りて、本誌の編集委員各位および資料収集にご協力くださった方々に深く感謝の意を申上げたいと思います。彼らが聯盟の発展に寄与する一心で、数ヶ月の間余暇を犠牲にしていろいろな作業をこなしてくれたことがなければ、十五年間の歴史とはほど濃厚に纏綿することができます。その意味でも、この一冊は重い一冊であり、聯盟の過去と未来を繋ぐ一冊であります。聯盟が日本で設立された初の中国人科学技術者の非営利団体として、設立以来、止まることなく走り続けました。その聯盟が、設立15周年という節目に、一瞬だけ足を止めて、これまでの軌跡を振り返り、自分を見詮めなおすことにしました。その結果がこの一冊の記念誌です。



发行人：楊克俊

編集長：錢祝慧

編集委員：汪平涛、魏然

(C) 在日本科学技术者聯盟

The Association of Chinese Scientists and Engineers in Japan

<http://www.acse.or.jp/english/>

事務局：〒171-0014 日本国東京都豊島区池袋2-47-3 キュレイコンビル7F

Email: acse@com.ee.or.jp

Tel: 81-80-3529-7230